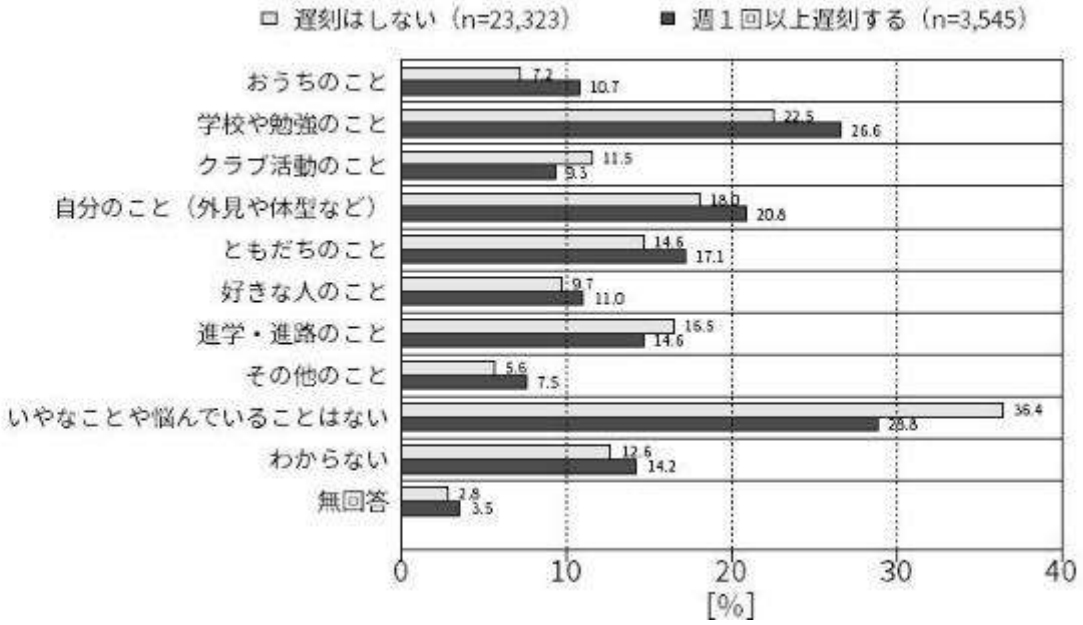
学校への遅刻別に見た 、悩んでいること（子ども票　問 9 × 子ども票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

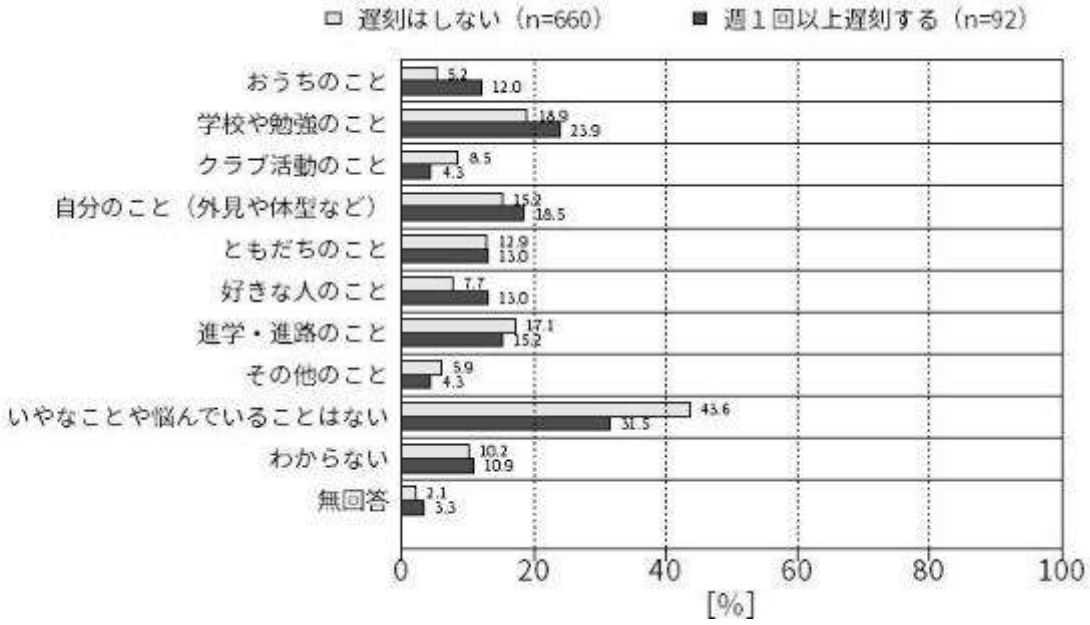
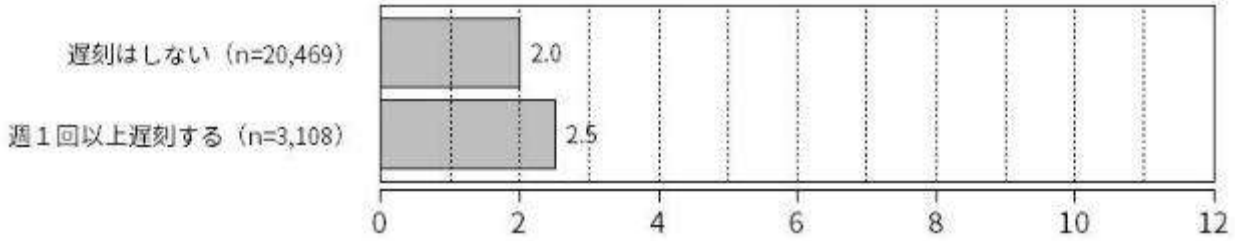


図 253. 学校への遅刻別に見た、悩んでいること

学校への遅刻別に子どもが悩んでいることを見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもの方が「遅刻はしない」子どもよりも、「自分のこと（外見や体型など）」では 3.3 ポイント 、「おうちのこと」では 6.8 ポイント、「学校や勉強のこと」では 5.0 ポイント、回答した割合が高い。また、「遅刻はしない」子どもにおいては、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合が 43.6%である。

学校への遅刻別に見た 、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
（子ども票　問 9 × 子ども票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

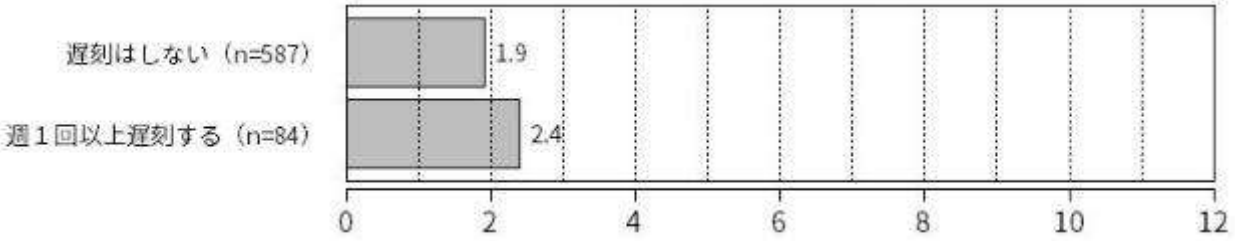


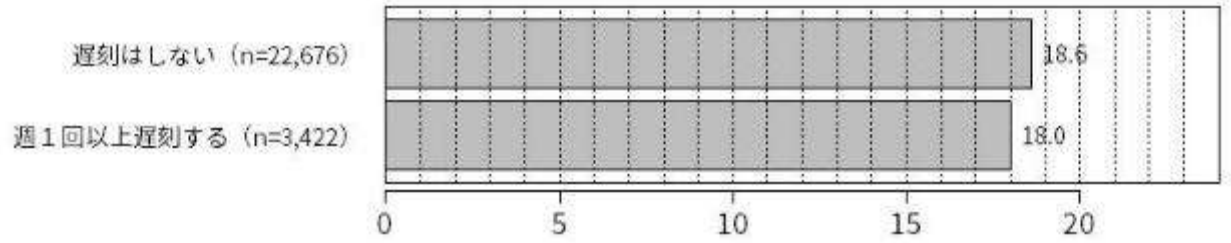
図 254. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもは、自分の体や気持ちで気になることが平均 2.4 個該当している。

学校への遅刻別に見た 、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 9 × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

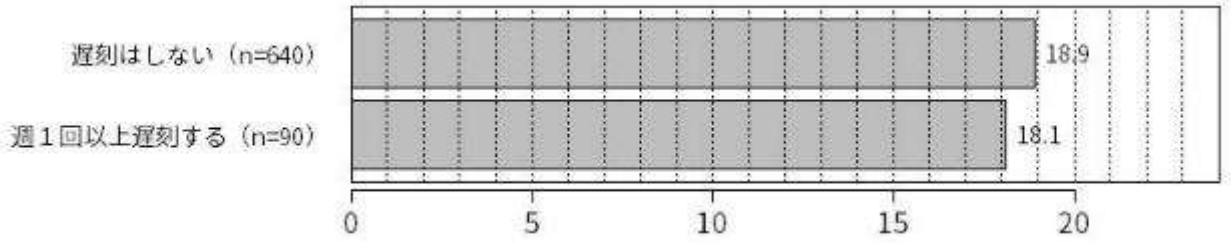
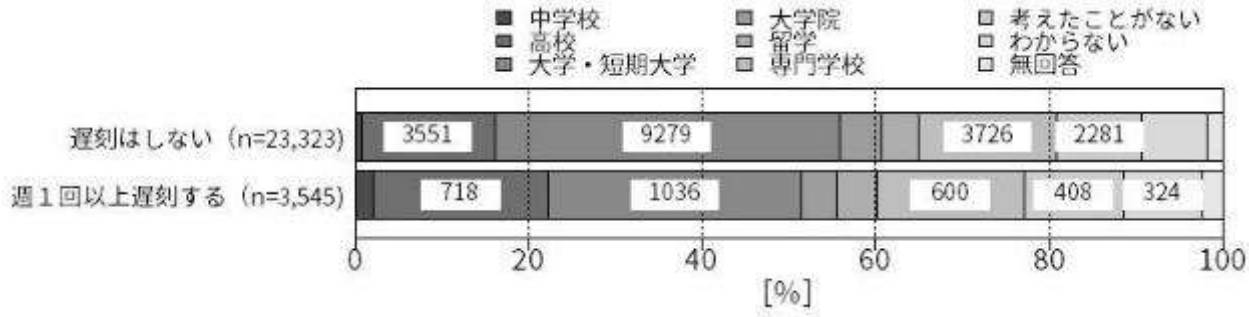


図 255. 学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもは 18.1 点、「遅刻はしない」子どもは 18.9 点であった。

学校への遅刻別に見た 、希望する進学先（子ども票　問 9 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

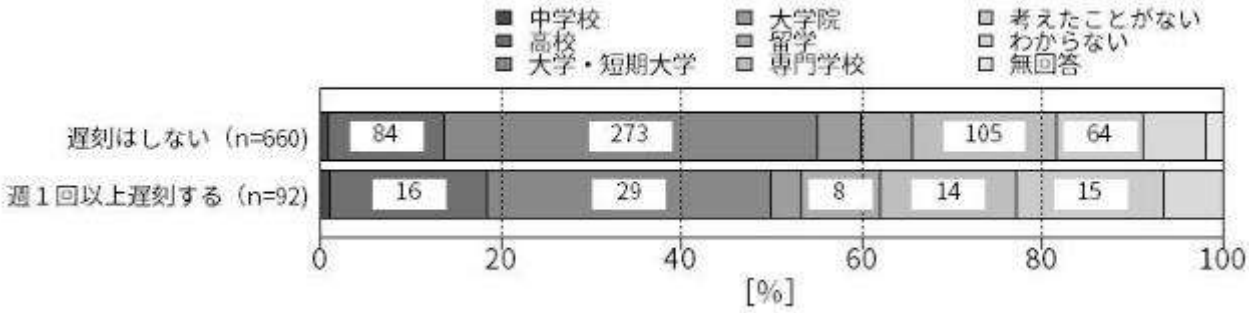


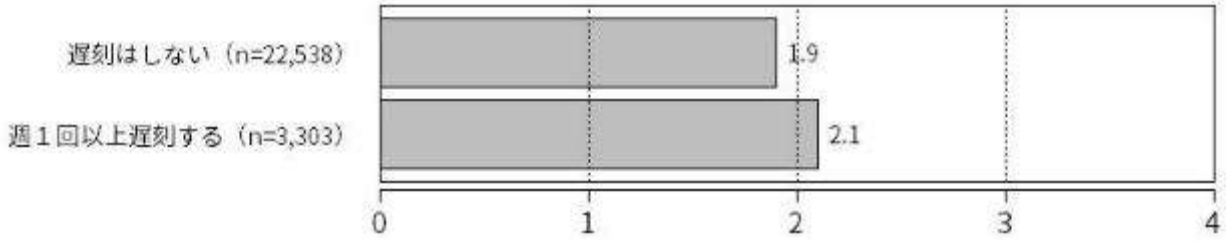
図 256. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に子どもの希望する進学先を見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもは「中学校」「高校」と回答した割合は合計すると 18.5%であった。「遅刻はしない」子どもは、「大学・短期大学」と回答した割合が 41.4%であった。

学校への遅刻別に見た 、学習理解度（子ども票　問 9 × 子ども票　問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで 4 項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

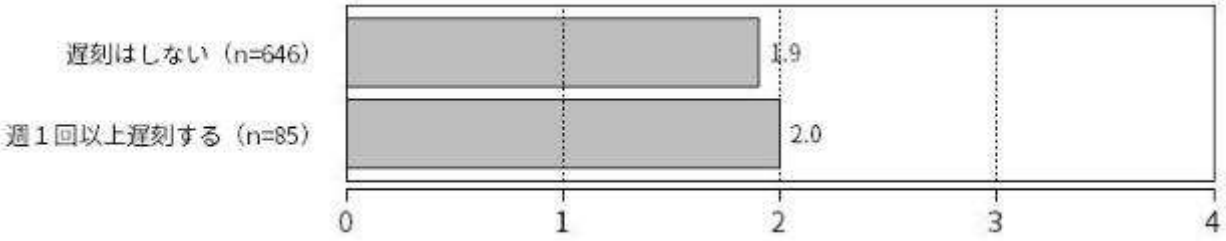
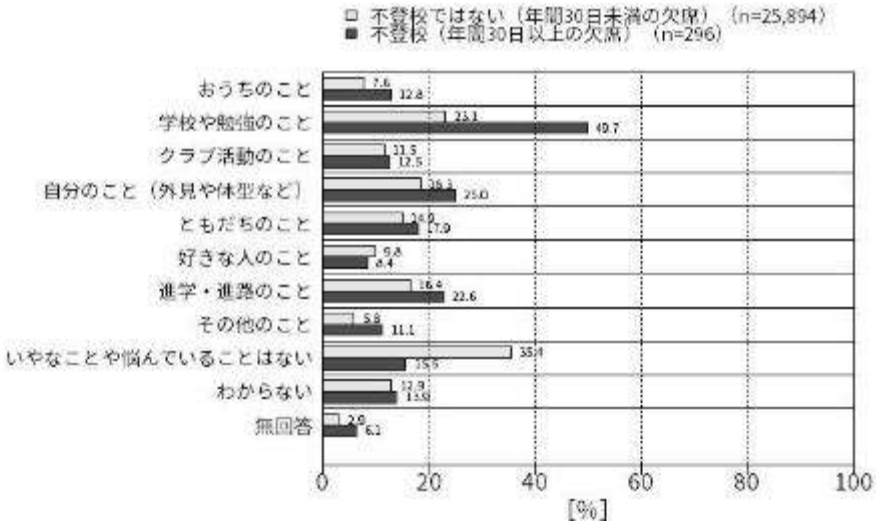


図 257. 学校への遅刻別に見た、学習理解度

学校への遅刻別に子どもの学習理解度を見ると、「週 1 回以上遅刻する」子どもは「遅刻はしない」子どもよりも学習理解度が低い。

登校状況別に見た 、悩んでいること（保護者票　問 21 × 子ども票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

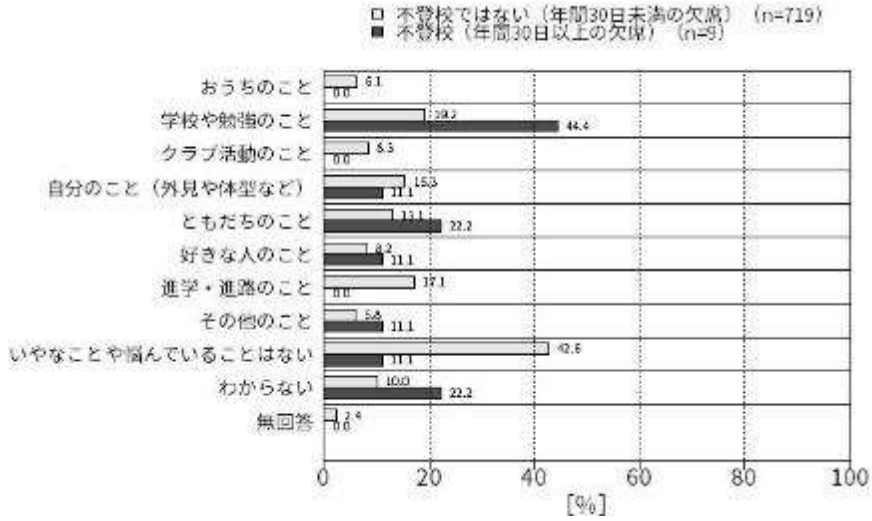


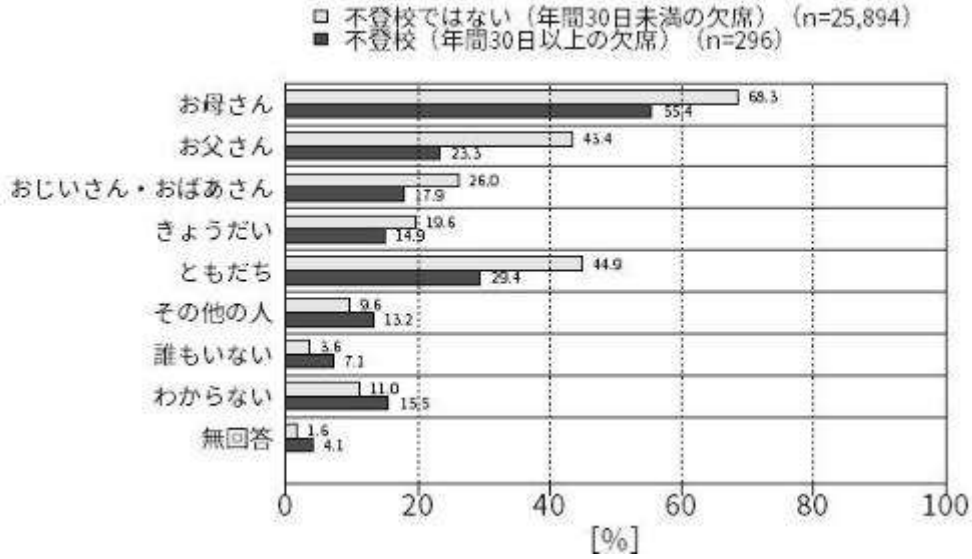
図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、 1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

不登校の子どもは 9 人であるため、登校状況別に子どもの悩んでいることについて述べることはできない。「学校や勉強のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において 44.4%であった。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 42.6%であった。

登校状況別に見た 、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合
（保護者票　問 21 × 子ども票　問 23⑥）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

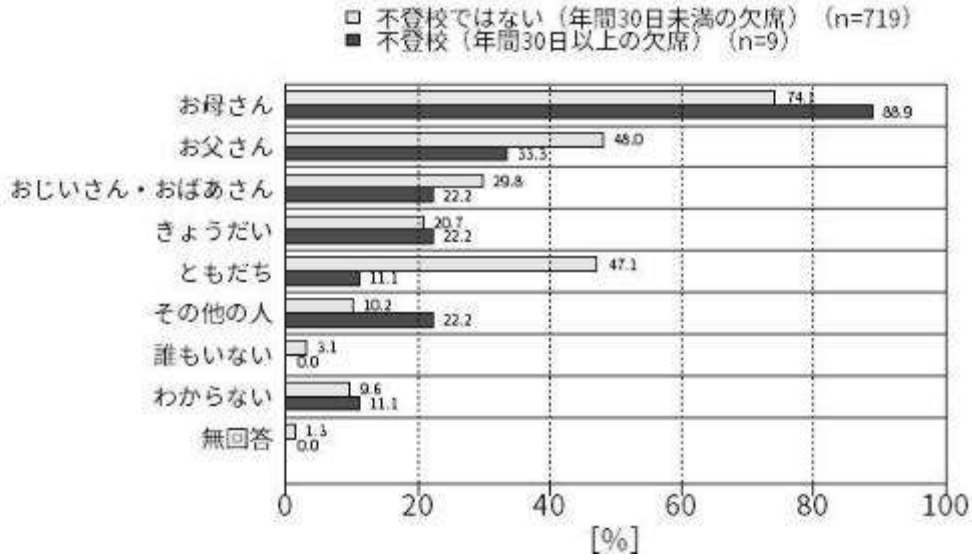
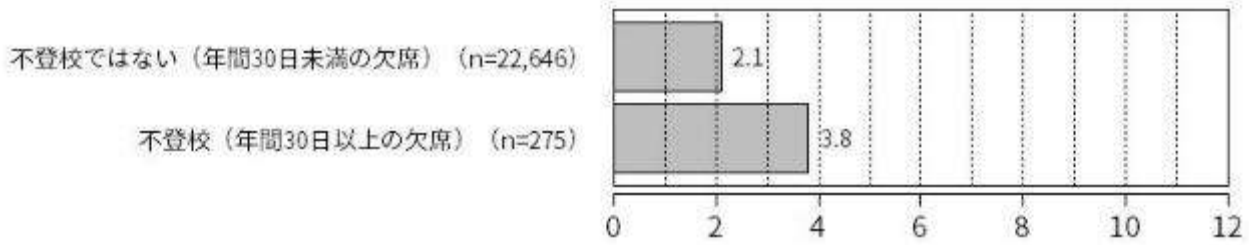


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合

不登校の子どもは 9 人であるため、登校状況別に子どもの悩んだときの対処を教えてくれる人について述べることはできない。子どもの「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合に着目すると、「不登校」では該当なしであった。

登校状況別に見た 、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
（保護者票　問 21 × 子ども票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

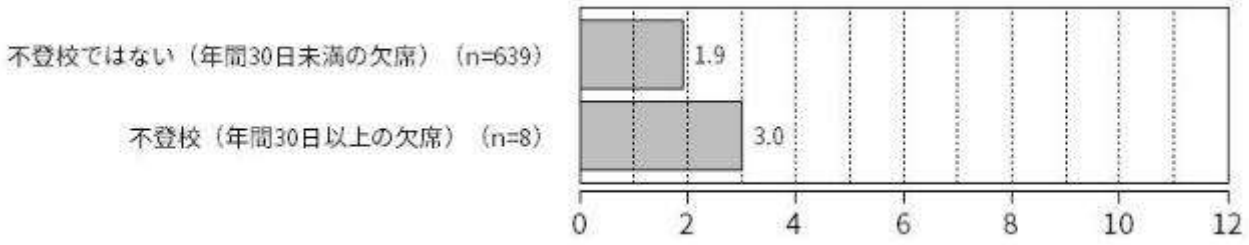


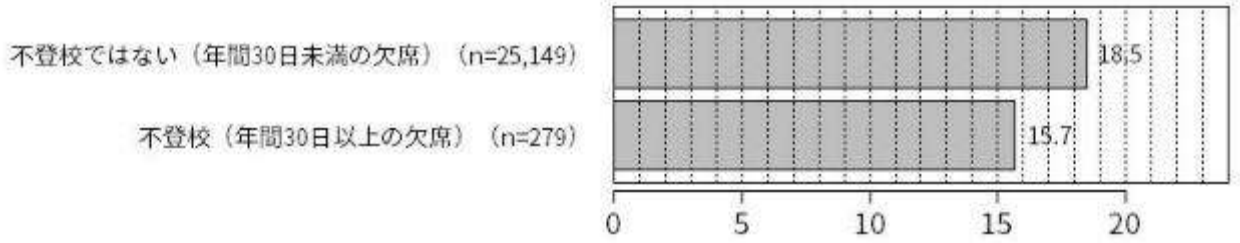
図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均 3 個であった。

登校状況別に見た 、子どものセルフ・エフィカシー
（保護者票　問 21 × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

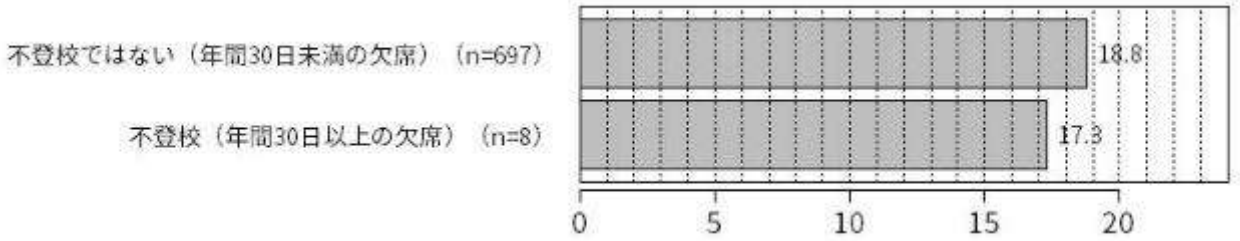
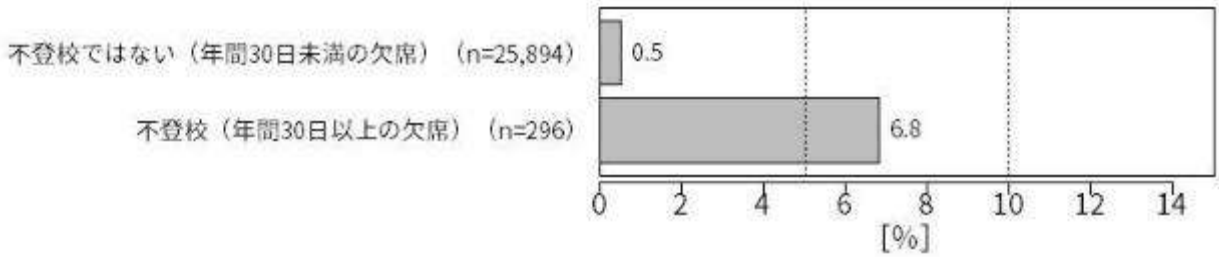


図 261．登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 17.3 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 2 点低い。

登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合（保護者票　問 21 × 子ども票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

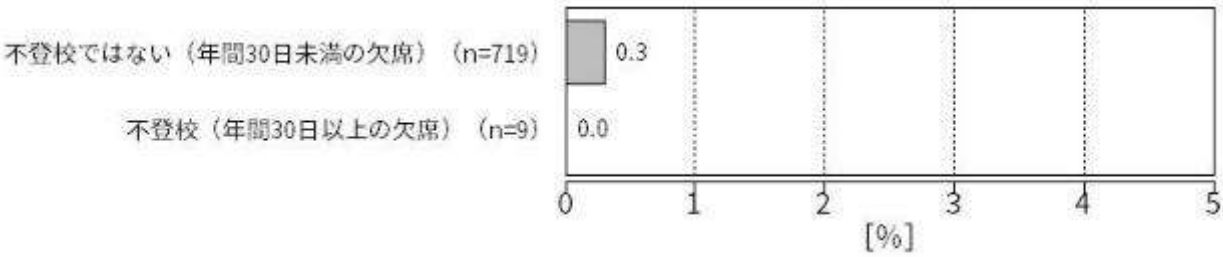
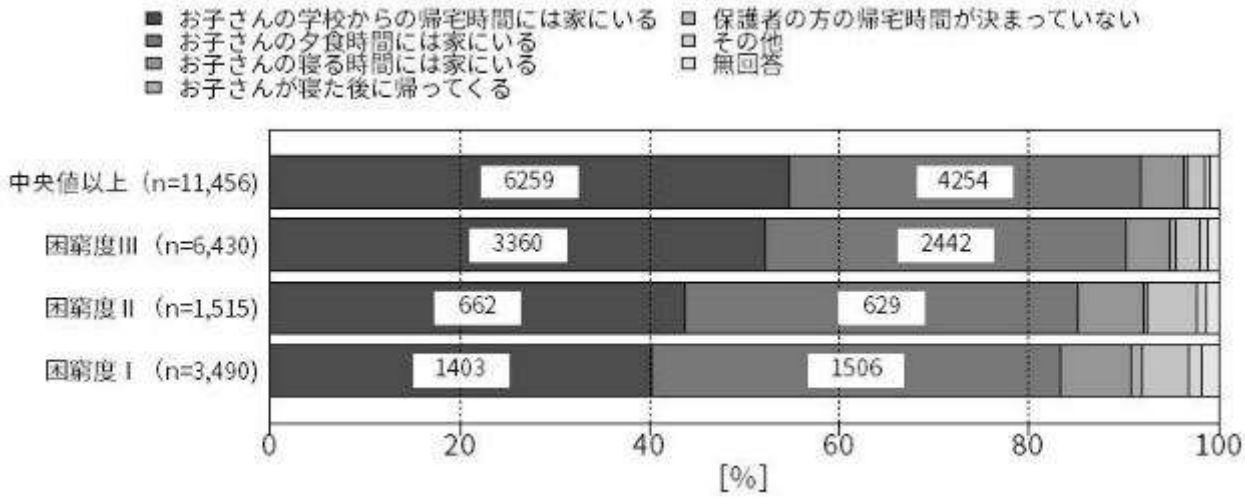


図 262．登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

不登校の子どもは 9 人であるため、登校状況別に子どものスクールカウンセラーに相談する割合について述べることはできない。登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときにスクールカウンセラーに相談する割合を見ると該当なしとなっている。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票　問 10）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

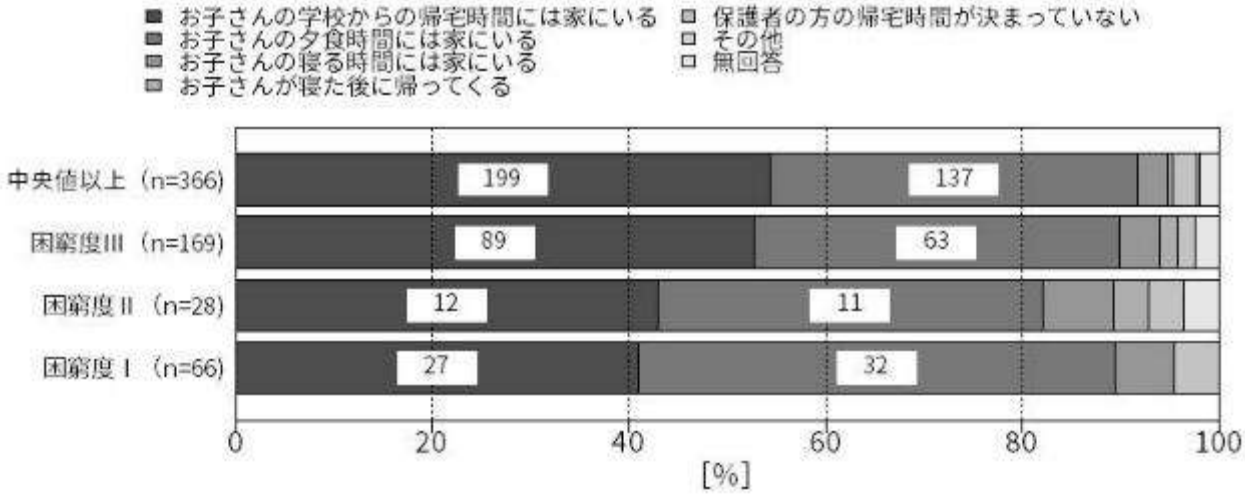
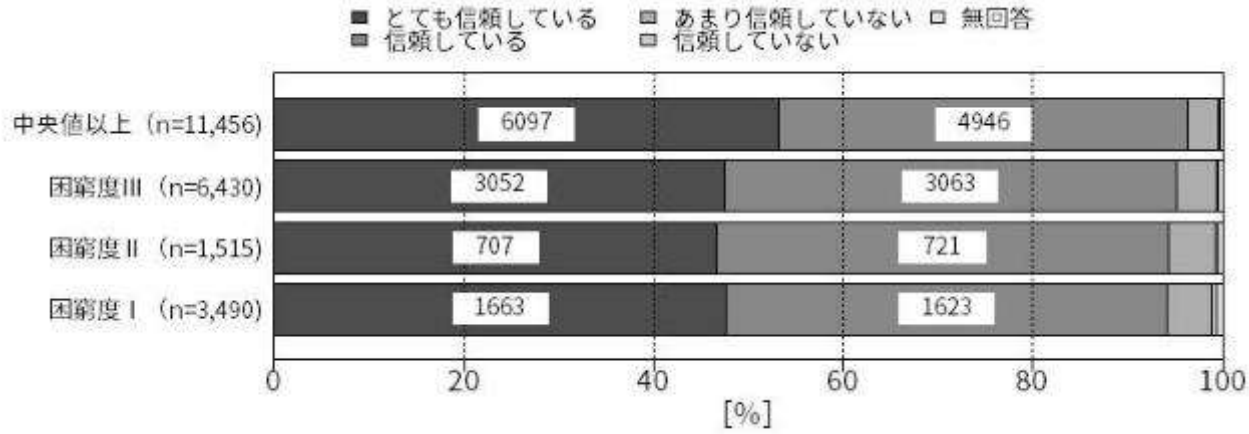


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの寝る時間には家にいる」と回答した割合が高く、6.1%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

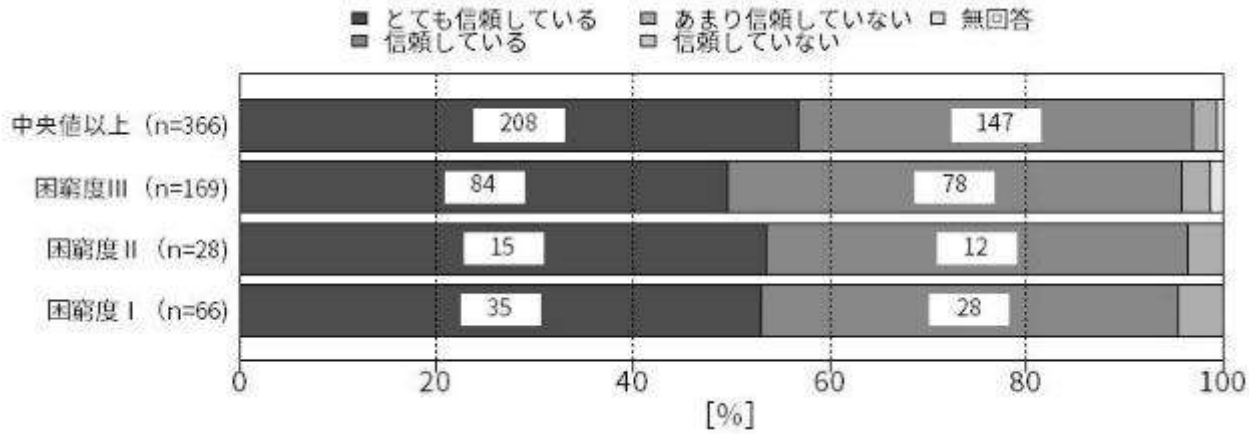
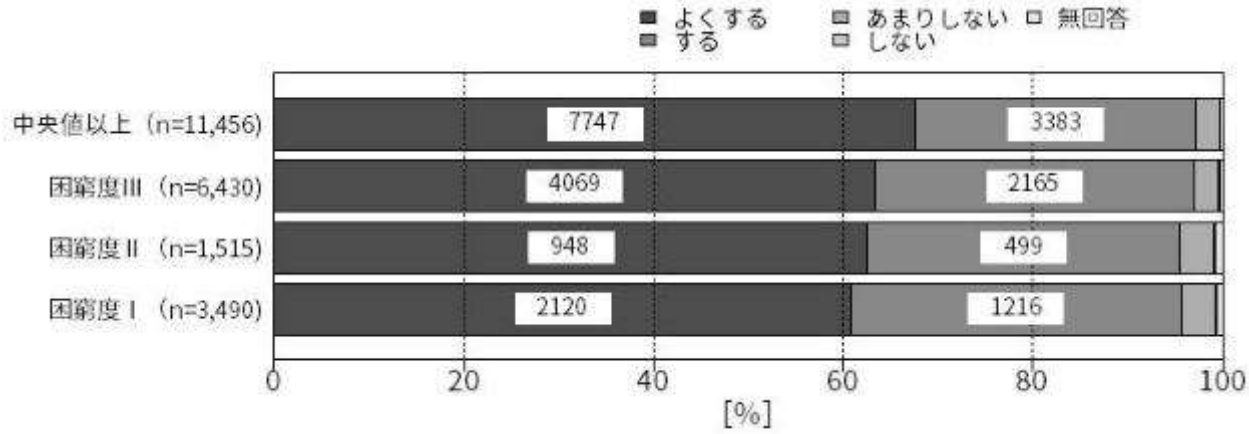


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 56.8%、困窮度 I 群では 53.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

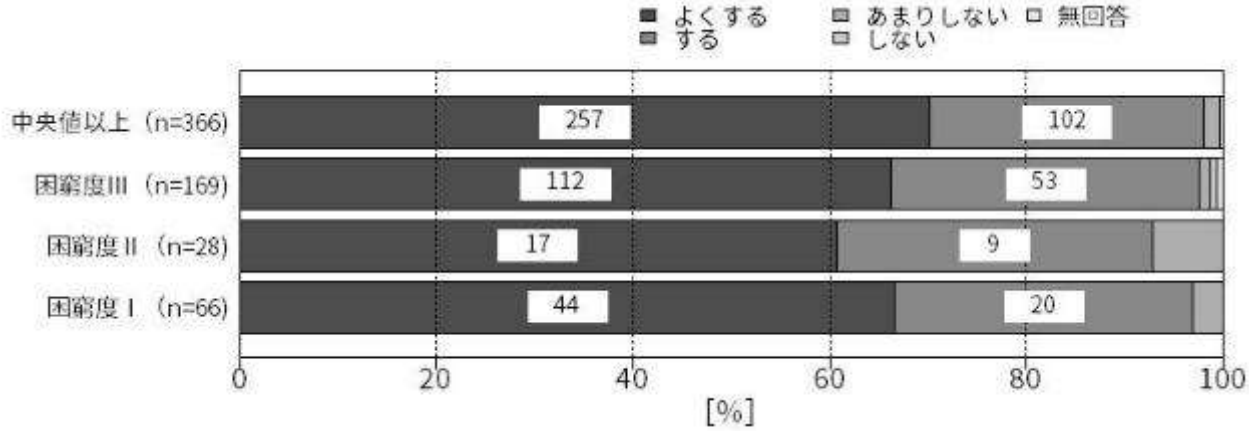
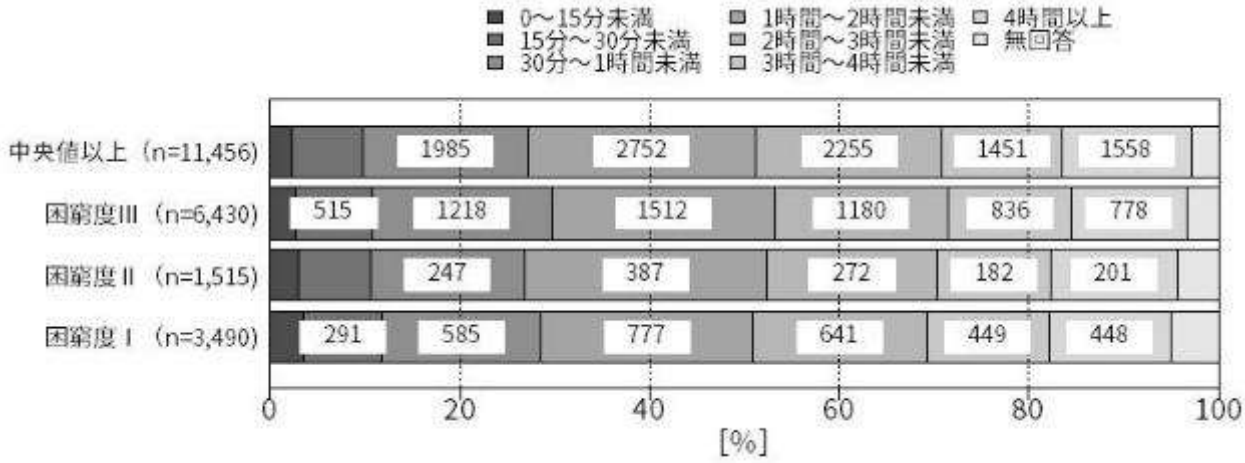


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 70.2%、困窮度Ⅰ群では 66.7%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

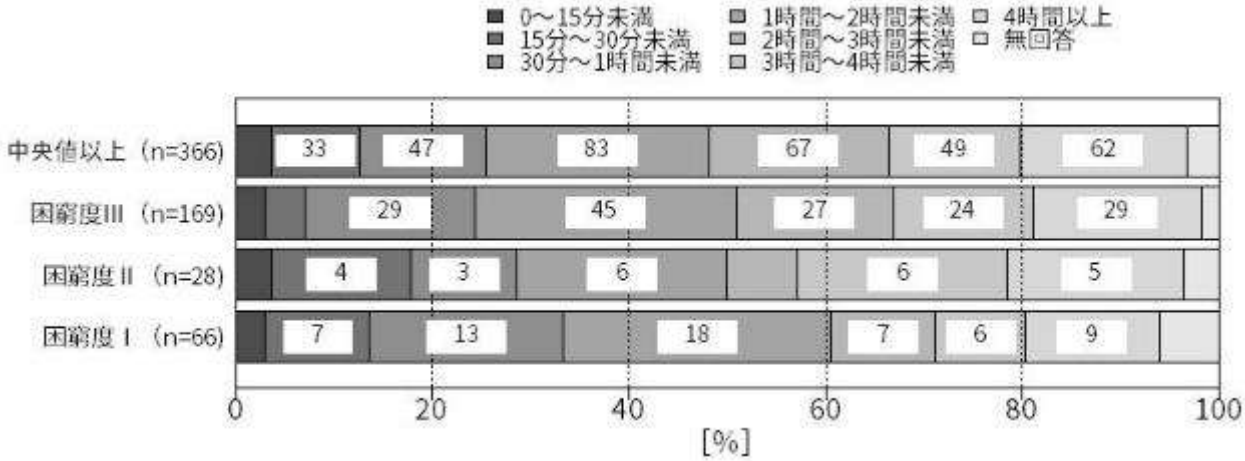
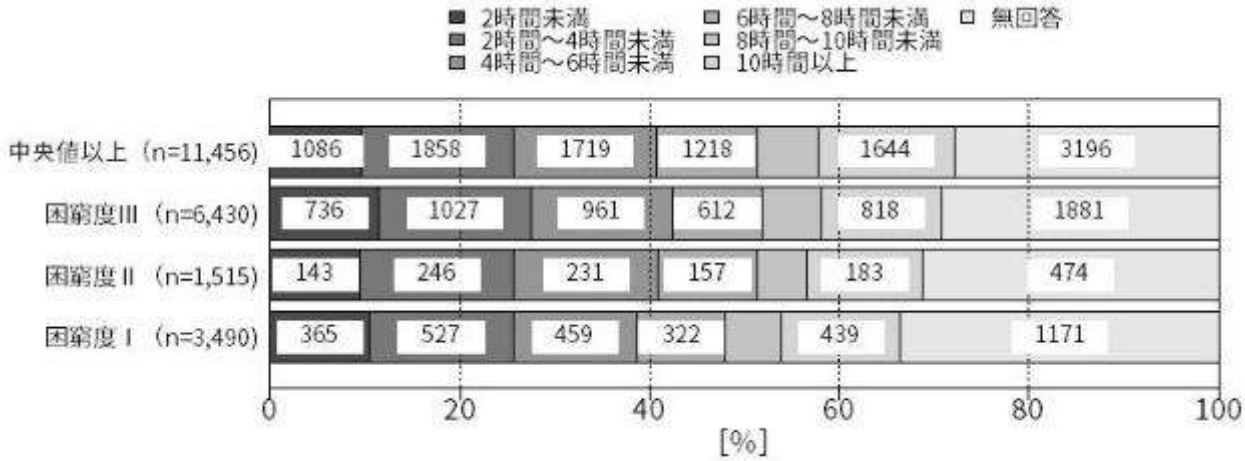


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、「4 時間以上」と回答した割合は中央値以上群で 16.9%、困窮度Ⅲ群で 17.2%、困窮度Ⅱ群で 17.9%、困窮度Ⅰ群で 13.6%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

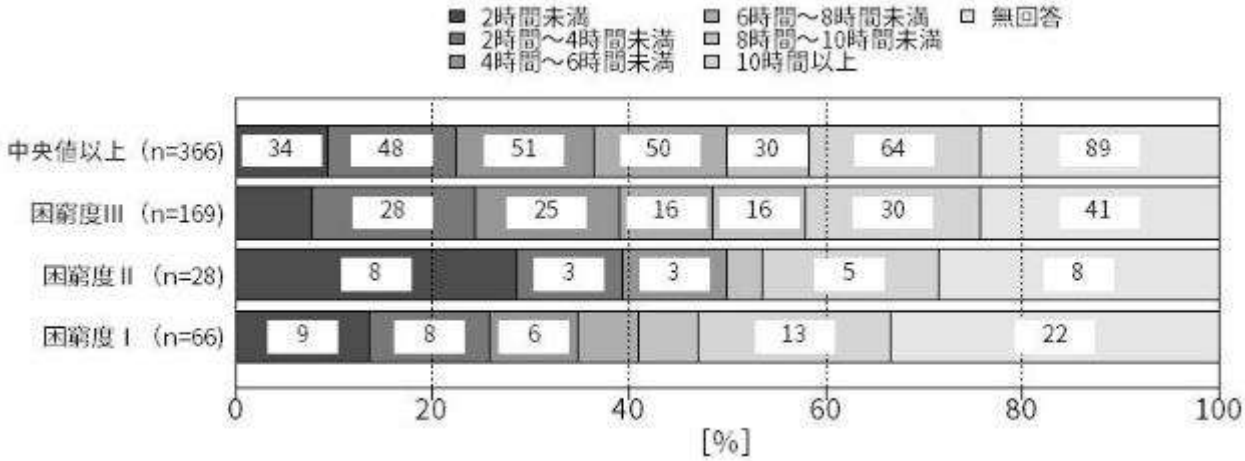
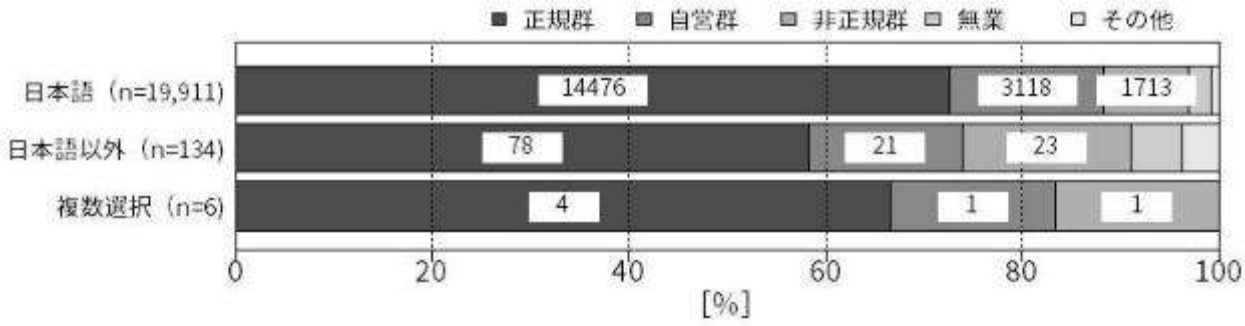


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「２時間未満」と回答した割合は中央値以上群で 9.3%、困窮度Ⅲ群で 7.7%、困窮度Ⅱ群で 28.6%、困窮度Ⅰ群で 13.6%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
（保護者票　問 2 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

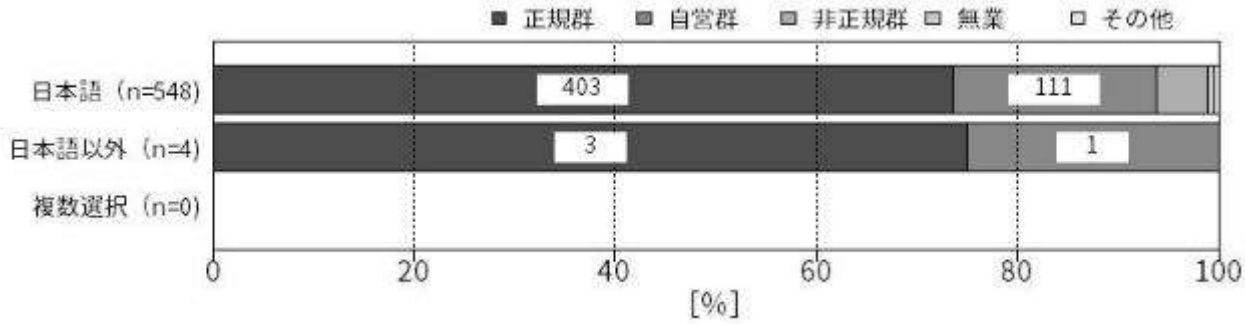
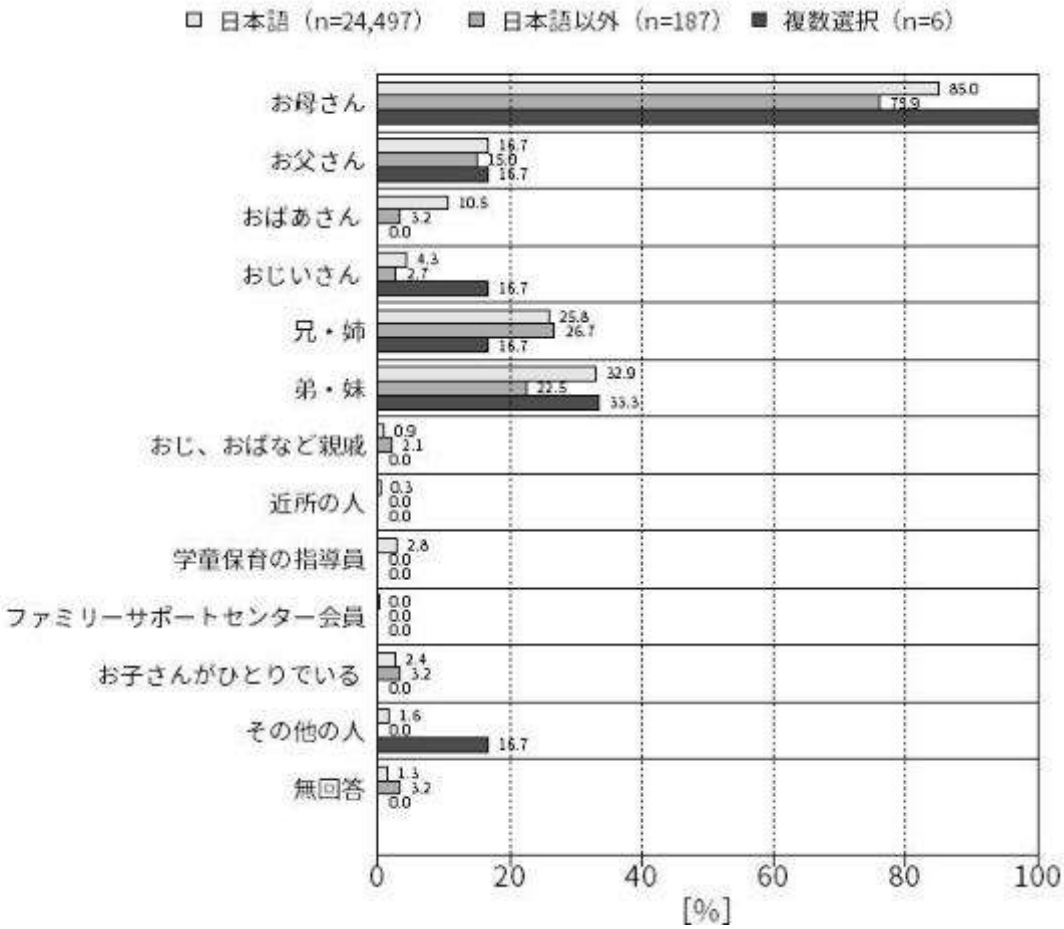


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語を母語としない回答者は 4 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に就労状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、非正規群が 5.1%、無業が 0.7%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 11）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

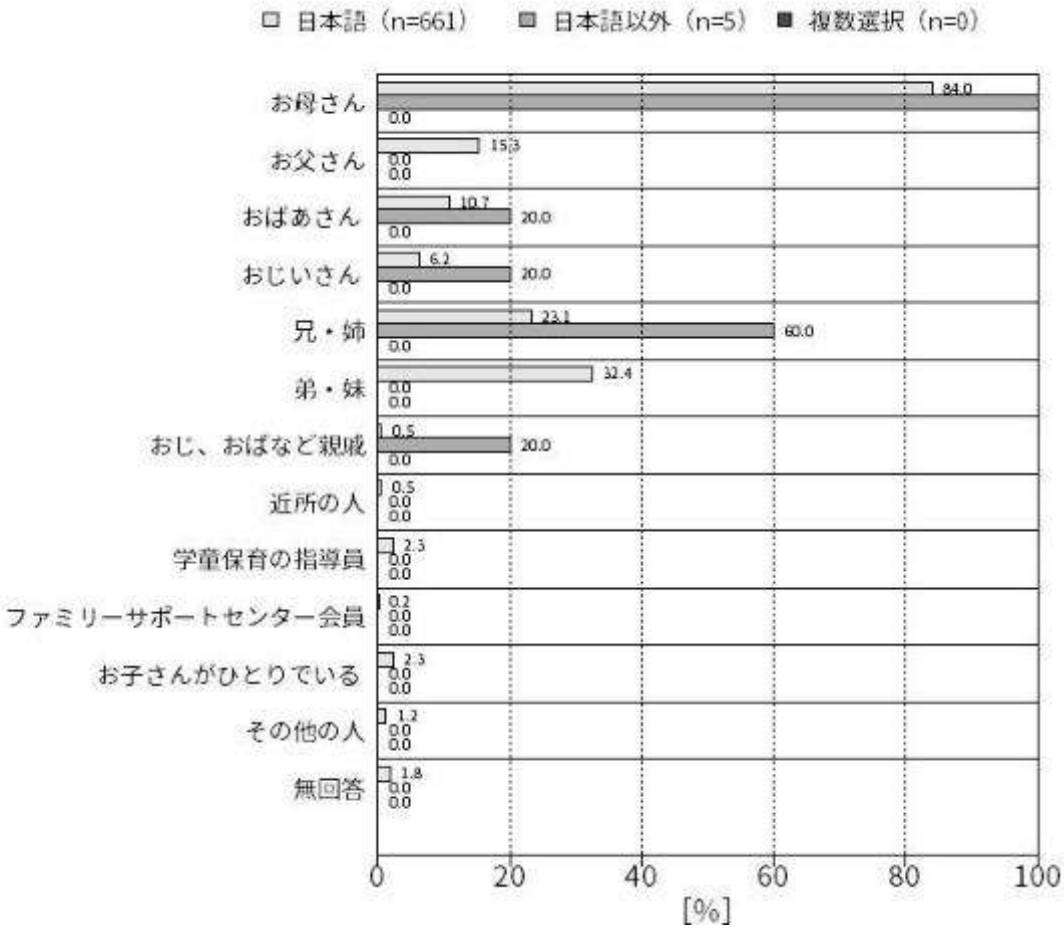
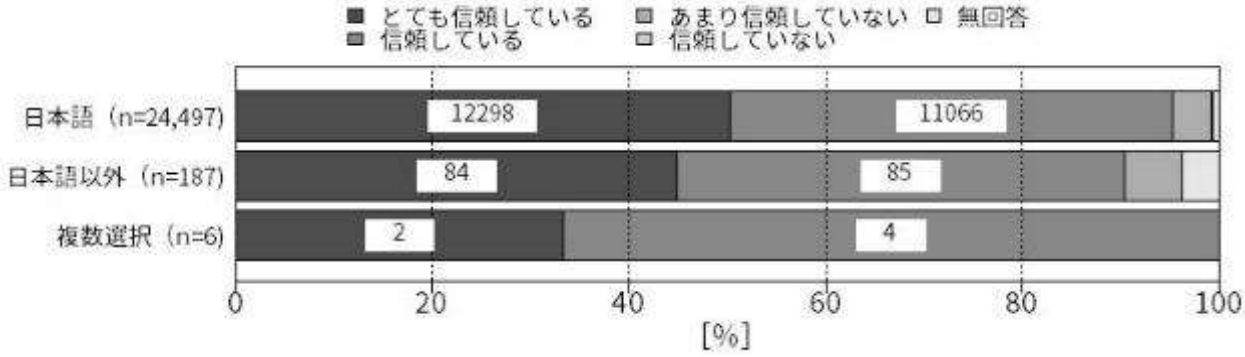


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に子どもと過ごす時間が長い人について述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもへの信頼度）（保護者票　問 2 × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

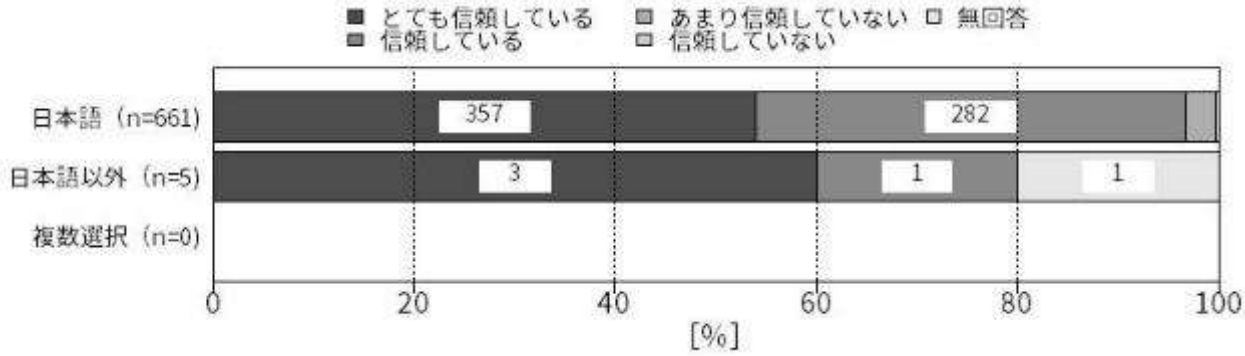
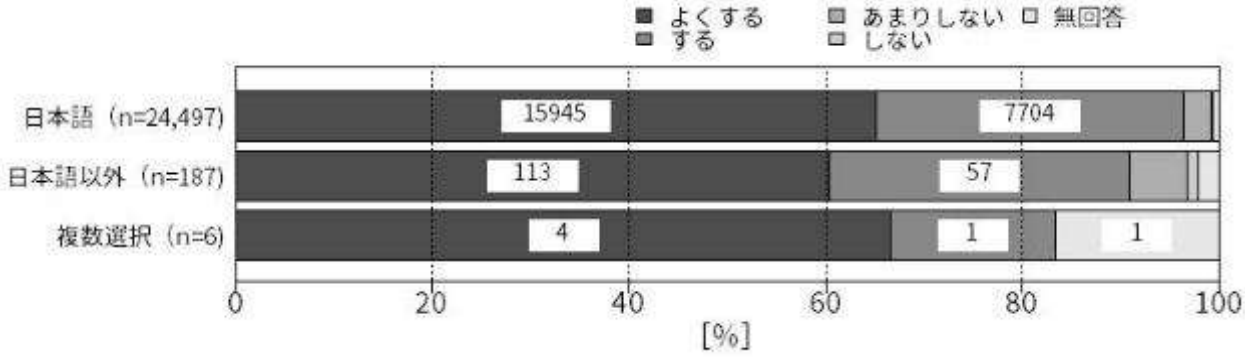


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもを「とても信頼している」と回答した割合が 54.0%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと会話）（保護者票　問 2 × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

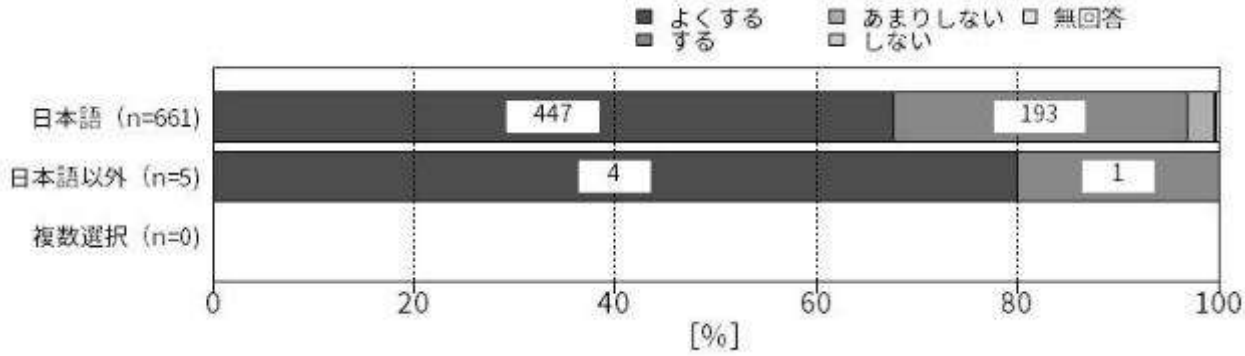
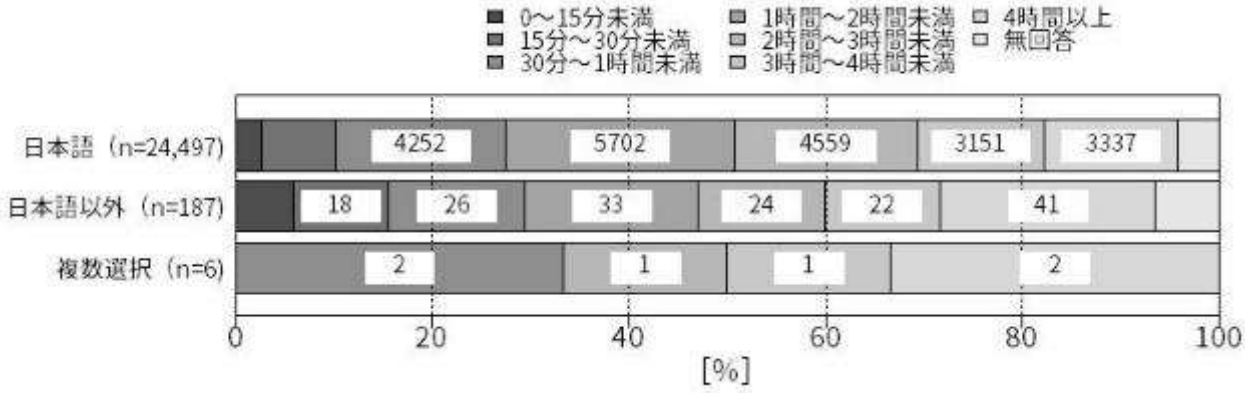


図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもと会話を「よくする」と回答した割合が 67.6%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））（保護者票　問 2 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

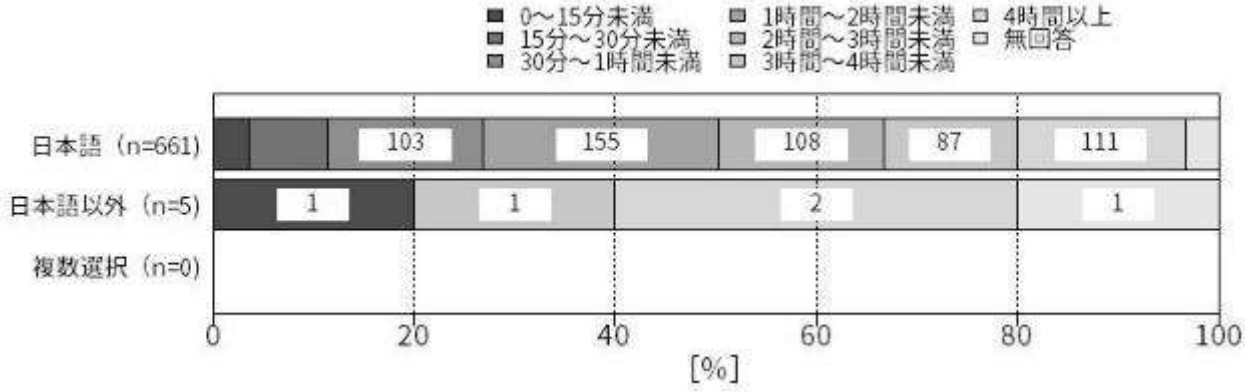
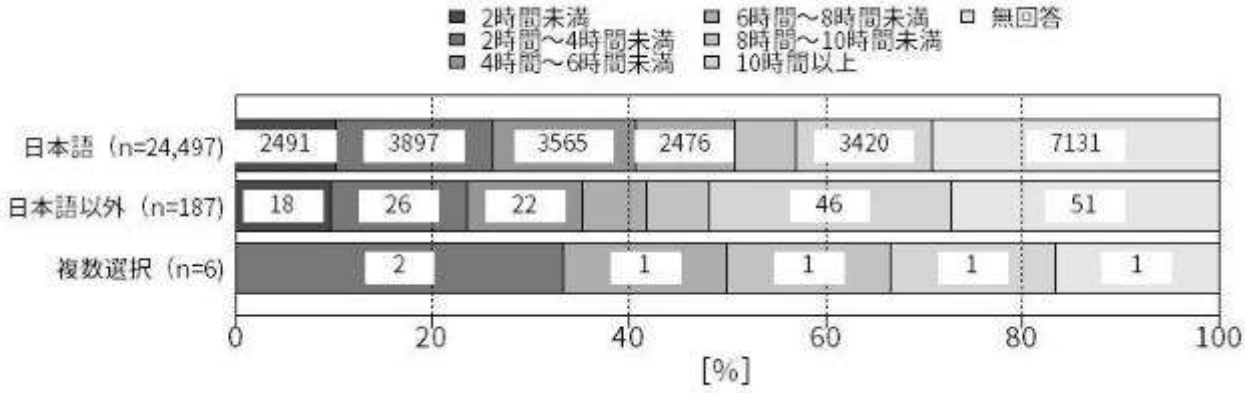


図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））について述べることはできない。日本語を母語とする場合、平日に子ども一緒にいる時間が「4 時間以上」と回答した割合が 16.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））（保護者票　問 2 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

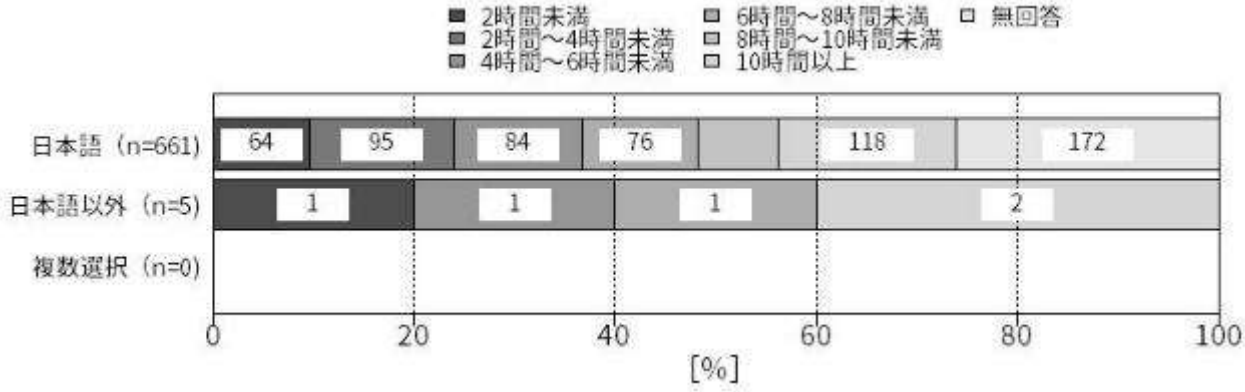
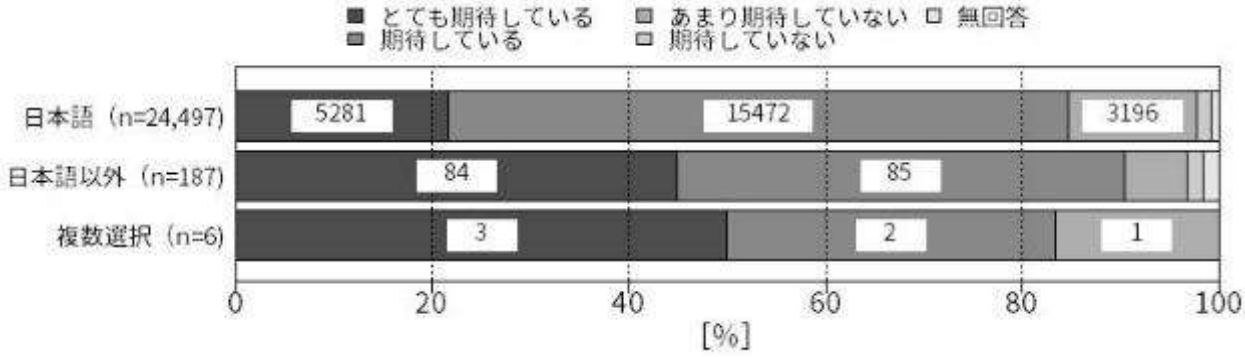


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））について述べることはできない。日本語を母語とする場合、休日に子ども一緒にいる時間が「１０時間以上」と回答した割合が 17.9%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

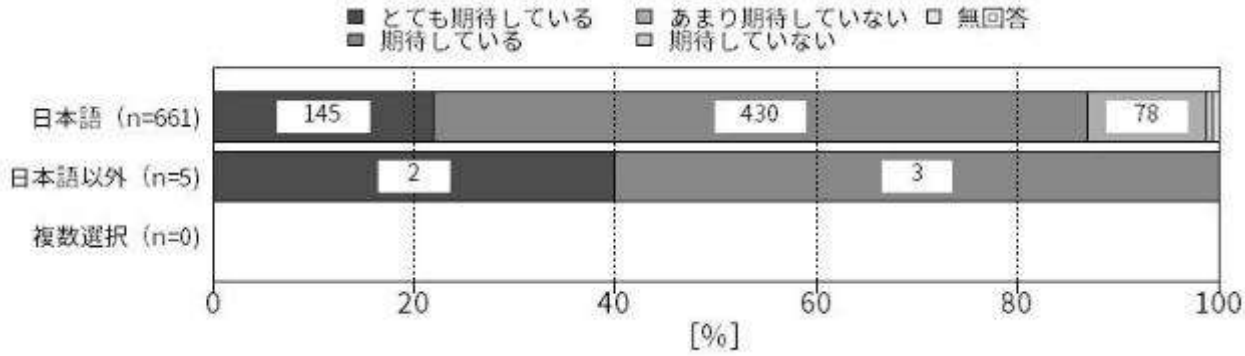
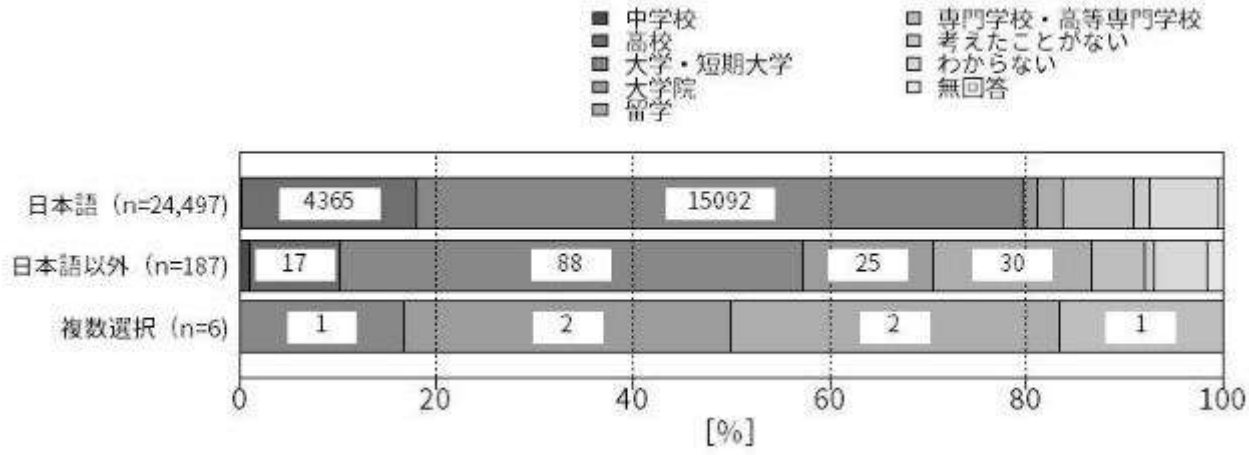


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 21.9%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先（保護者票　問 2 × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

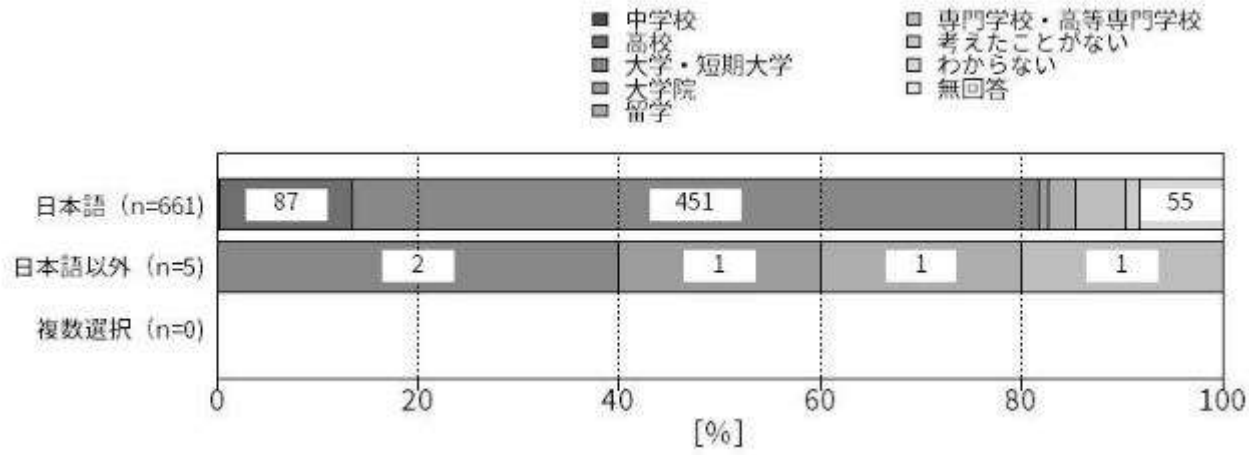
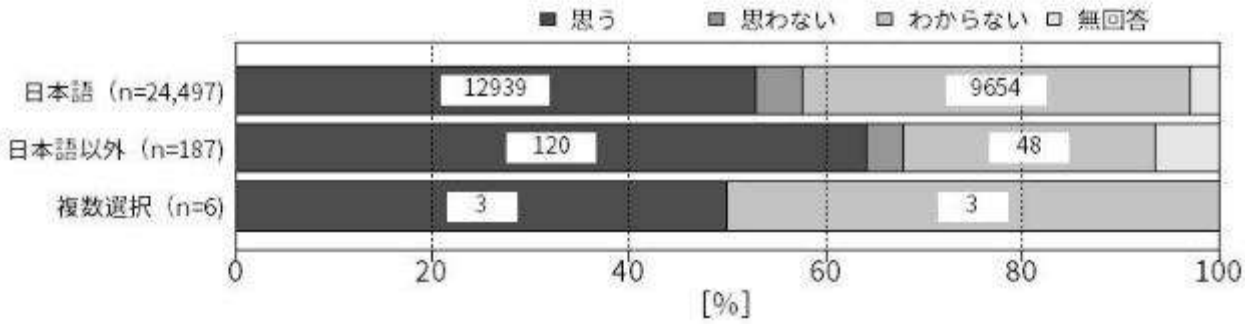


図 275.　日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に希望する進学先について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもの進学について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 13.2%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 16）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

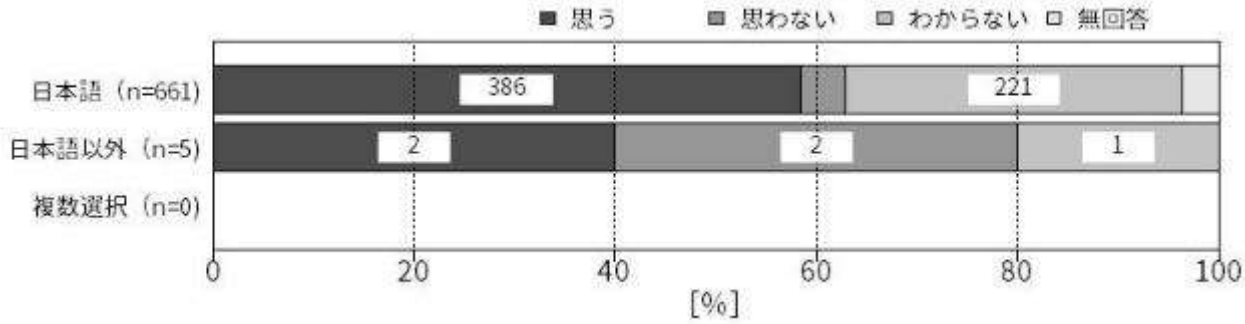
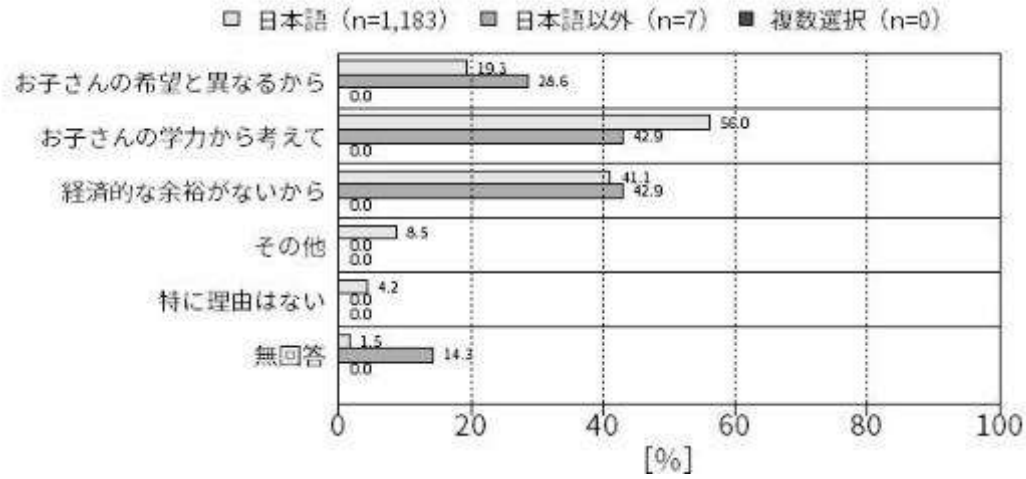


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に子どもの進学達成予測について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと「思う」と回答した割合が 58.4%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 17）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

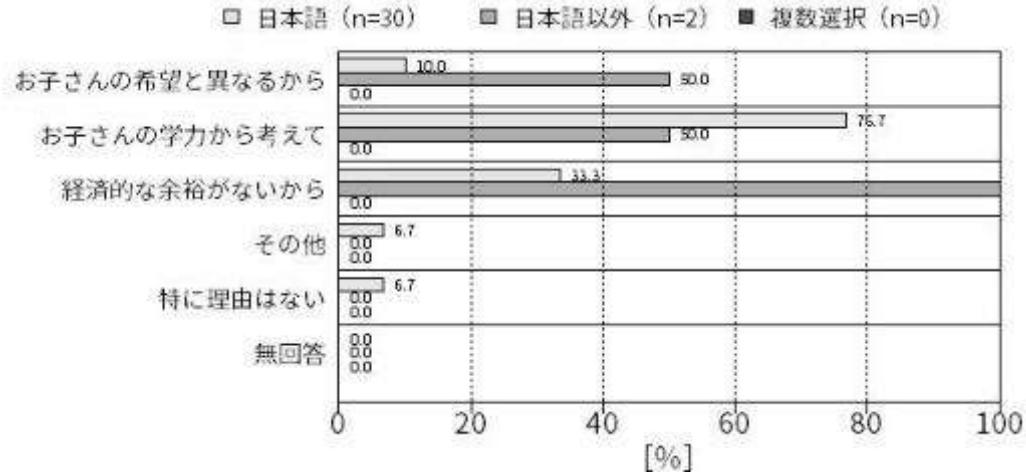
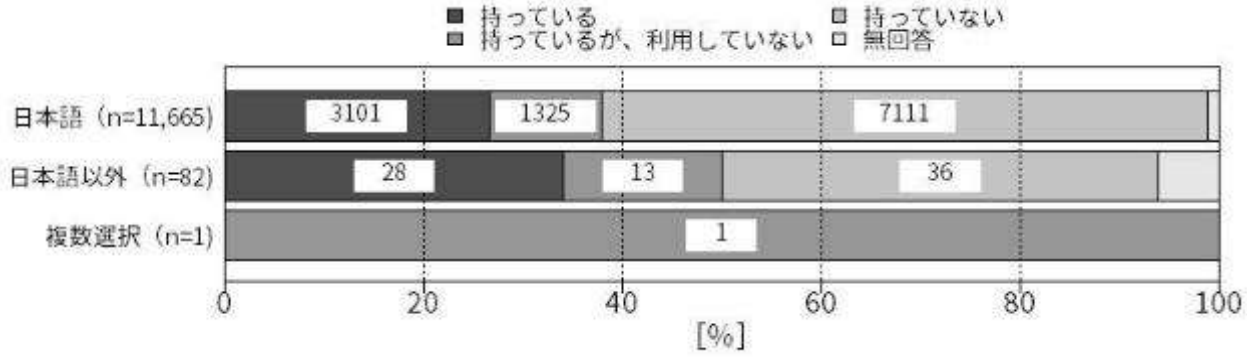


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない回答者は 2 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に子どもの進学達成「思わない」理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、子どもが希望する進学先まで進むと思わないと回答した理由として、「お子さんの学力から考えて」が 76.7%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

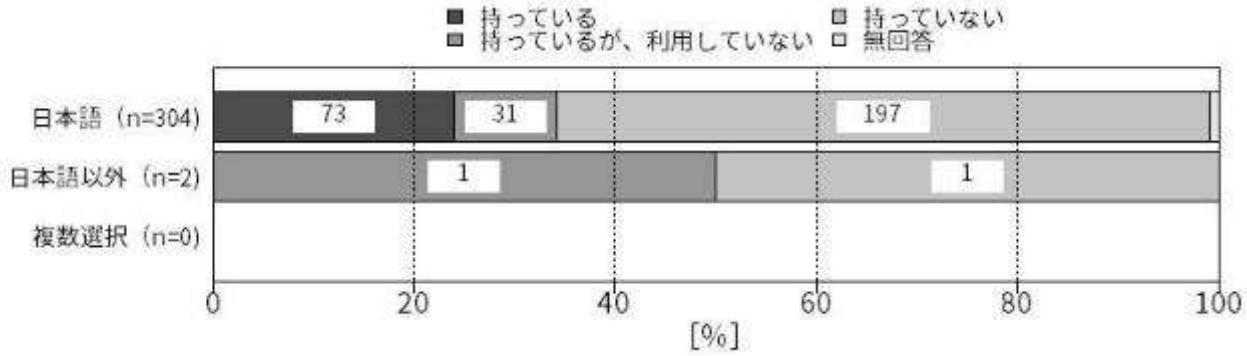
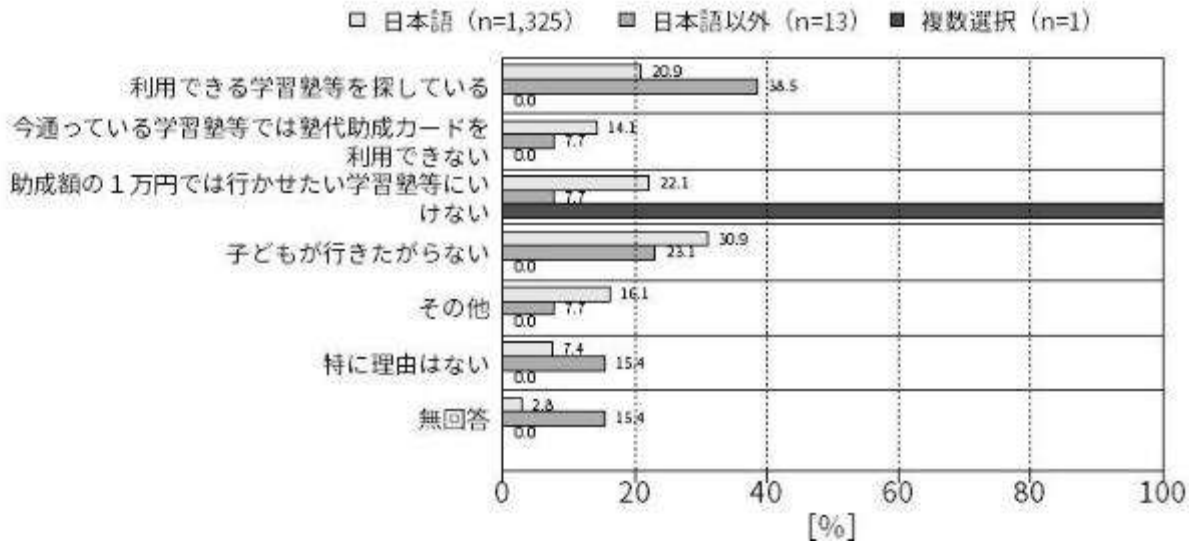


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない回答者は 2 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードの所持状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを「持っている」と回答した割合が 24.0%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

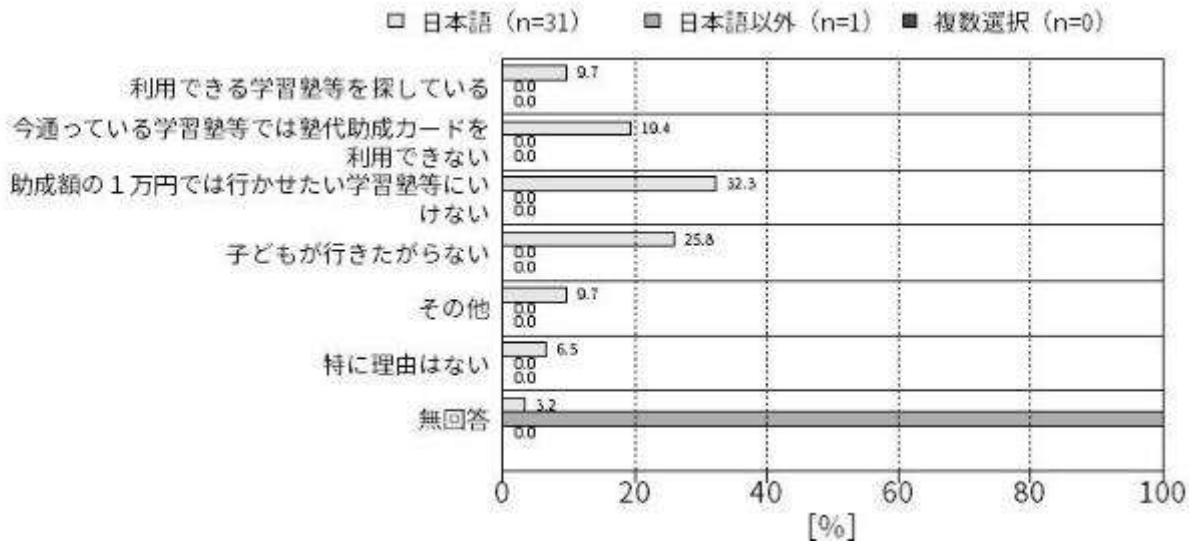
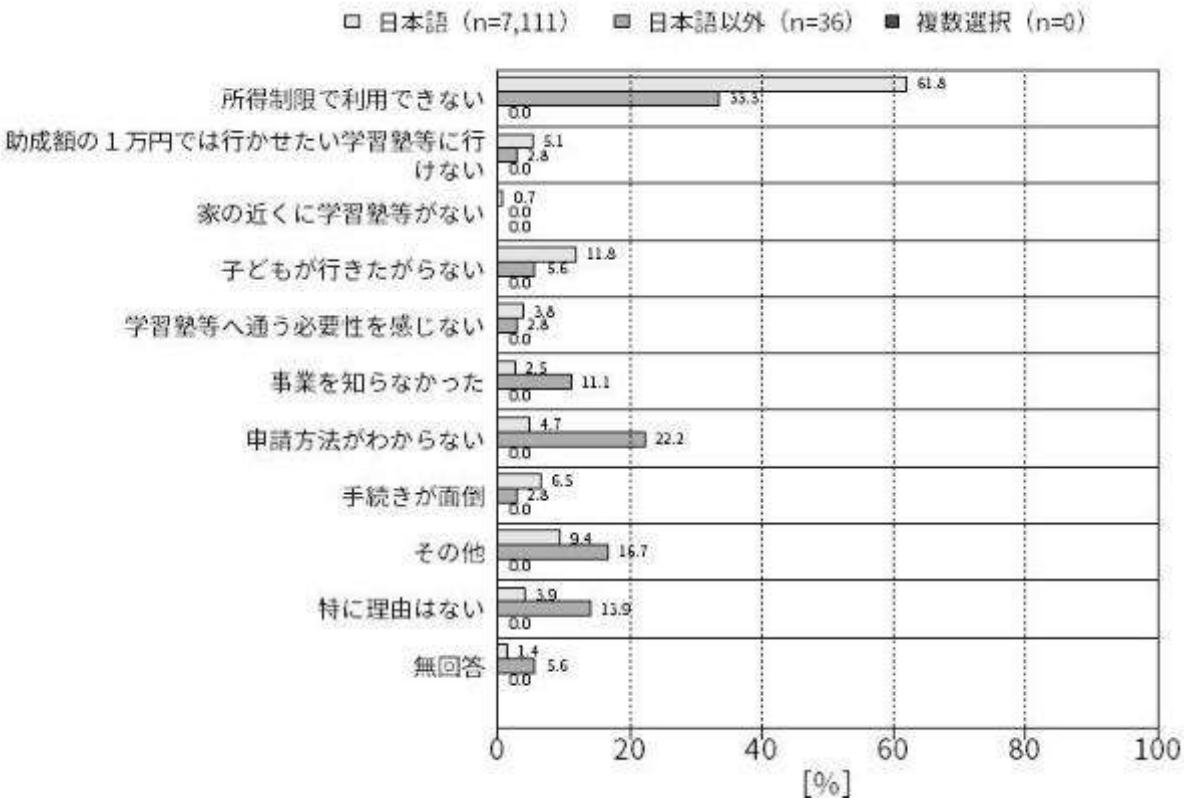


図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない回答者は 1 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードを持っているが利用していない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っているが利用していない理由として、「助成額の 1 万円では行かせたい学習塾等にいけない」が 32.3%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 20）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

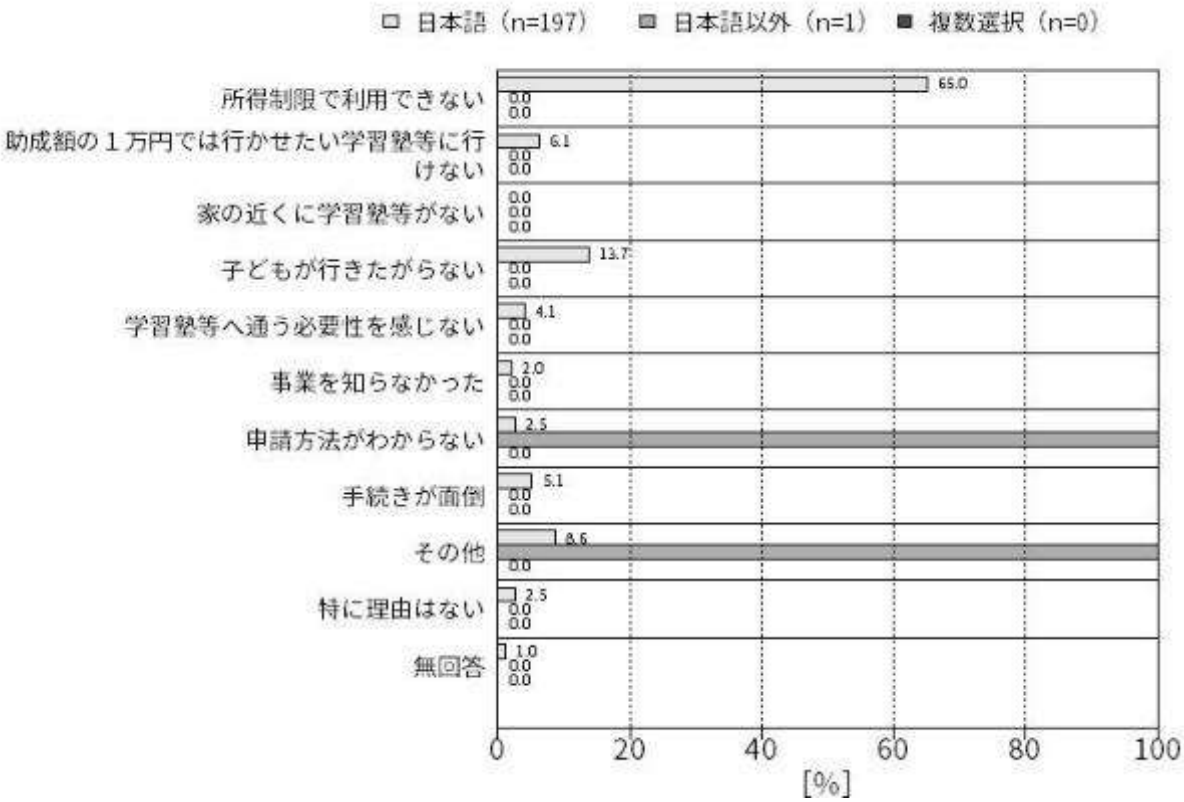
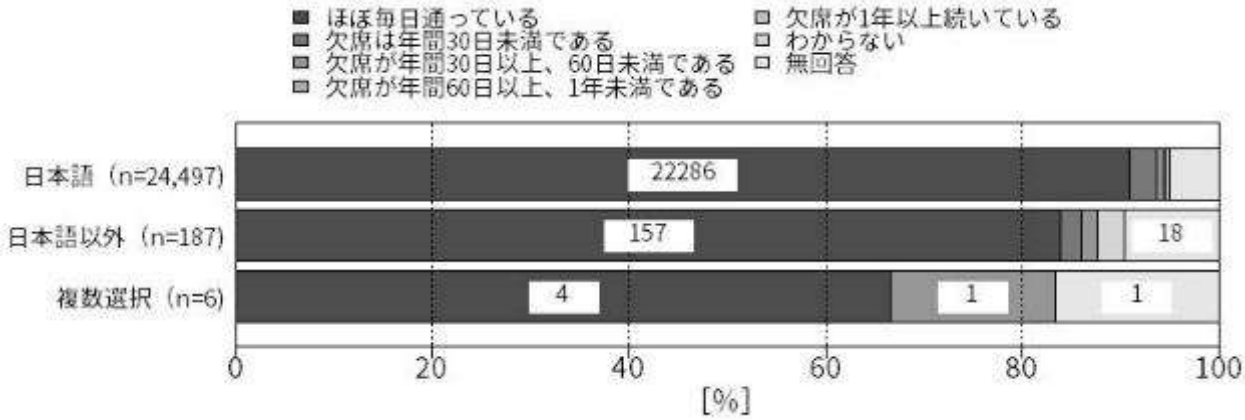


図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない回答者は 1 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に塾代助成カードを持っていない理由について述べることはできない。日本語を母語とする場合、塾代助成カードを持っていない理由として、「所得制限で利用できない」が 65.0%と多くなっている。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

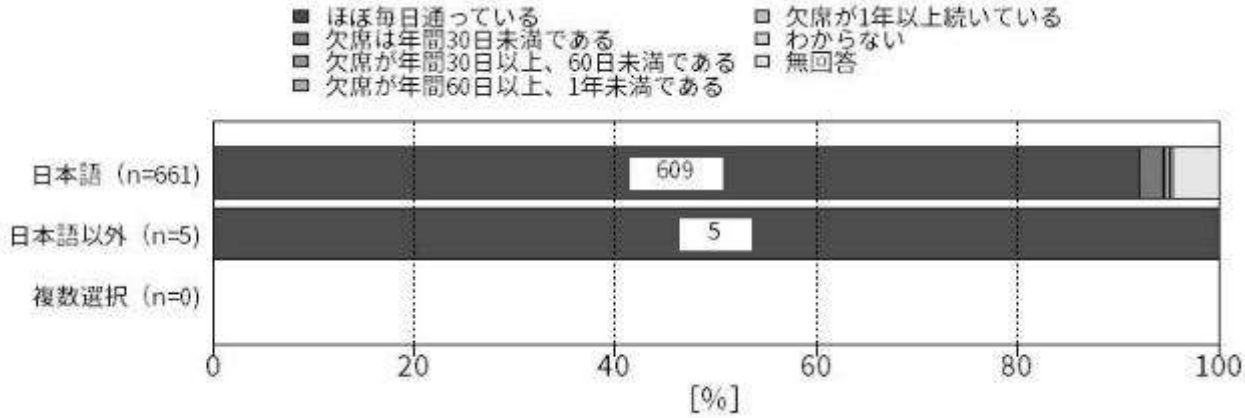


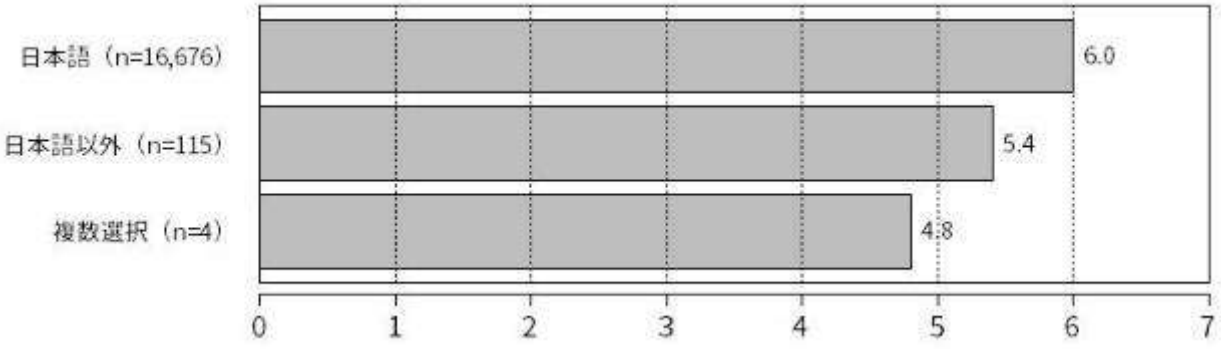
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に子どもの通学状況について述べることはできない。日本語を母語とする場合、学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合は 92.1%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 23①～⑦）

※「支えてくれる人得点」については図 198 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

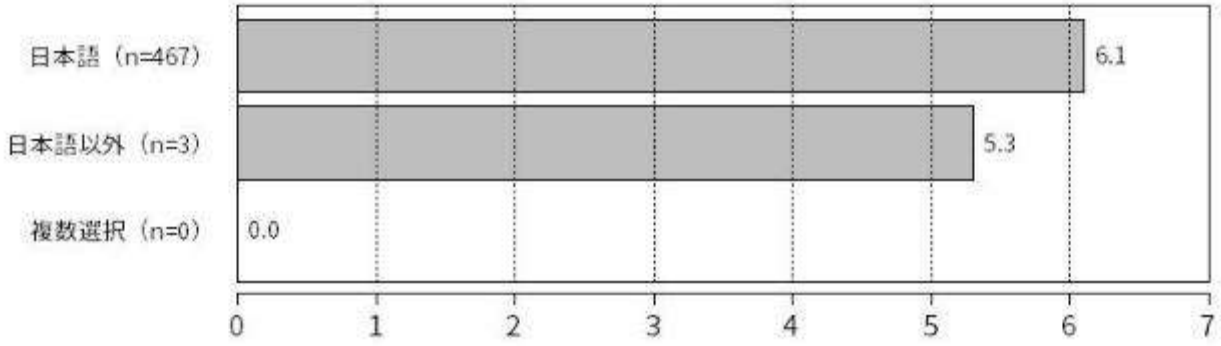


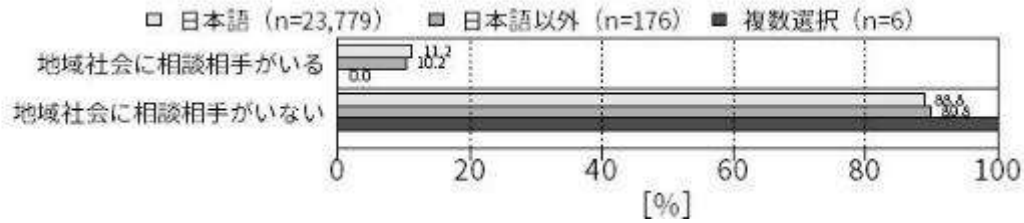
図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

日本語を母語としない回答者は 3 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に支えてくれる人得点について述べることはできない。日本語を母語としない人の方が、「支えてくれる人」の平均値が 5.3 点であったのに対し、日本語を母語ととする場合では 6.1 点であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無
（保護者票　問 2 × 保護者票　問 24）

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも 1 つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

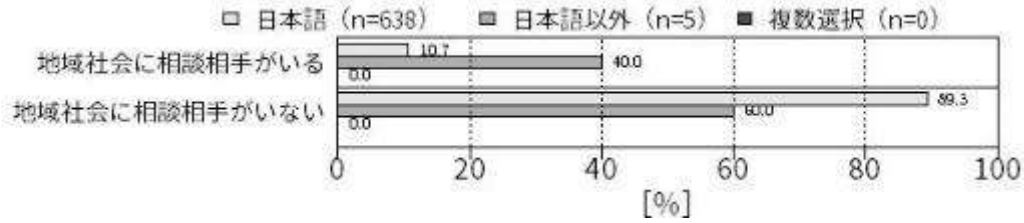


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない回答者は 5 人しかおらず、日常生活でよく使う言葉別に地域社会における相談相手の有無について述べることはできない。日本語を母語とする場合は、「地域社会に相談相手がいない」と回答した割合が 89.3%であった。

＜家庭生活・学習に関する考察＞

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったくない」「ほとんどない」合わせると 42.4%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度は下がり、宿題を見てもらわない子どもが 33.3%（大阪市全体 35.9%）、文化活動をともにすることがない子どもが 30.3%（大阪市全体 40.0%）、ほとんどないと合わせると 66.7%（大阪市全体：78.1%）を占め、中央値以上と 0.1 ポイントほどの差がある（大阪市全体は 7 ポイントほど）。

勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、30 分以内と少なくなり、読書時間も同様の傾向で、困窮度Ⅰ群では全くしない人は 21.2%（大阪市全体：37.6%）を占める。これらの結果として学習理解度は、困窮度Ⅰ群では、あまりわからない・ほとんどわからない人が 13.7%（大阪市全体：23.4%）になる。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくしない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群では、19.7%（大阪市全体：17.9%）の保護者があまり期待していない。子ども自身の希望と保護者の希望では、困窮度が高まるにつれ、「中学校」「高校」と回答した子どもが増え、困窮度Ⅰ群では、その値が進学希望 22.7%（大阪市全体：25.4%）、保護者の進学予測 33.3%（大阪市全体：33.5%）となる。つまり、子ども自身が希望は高校卒業までではないが、保護者はそこまでと思っているずれがある。保護者も困窮度が高まるにつれ、子どもの進学達成をあきらめており、その理由が経済的理由である割合が 66.7%（大阪市全体：64.8%）と高くなる。

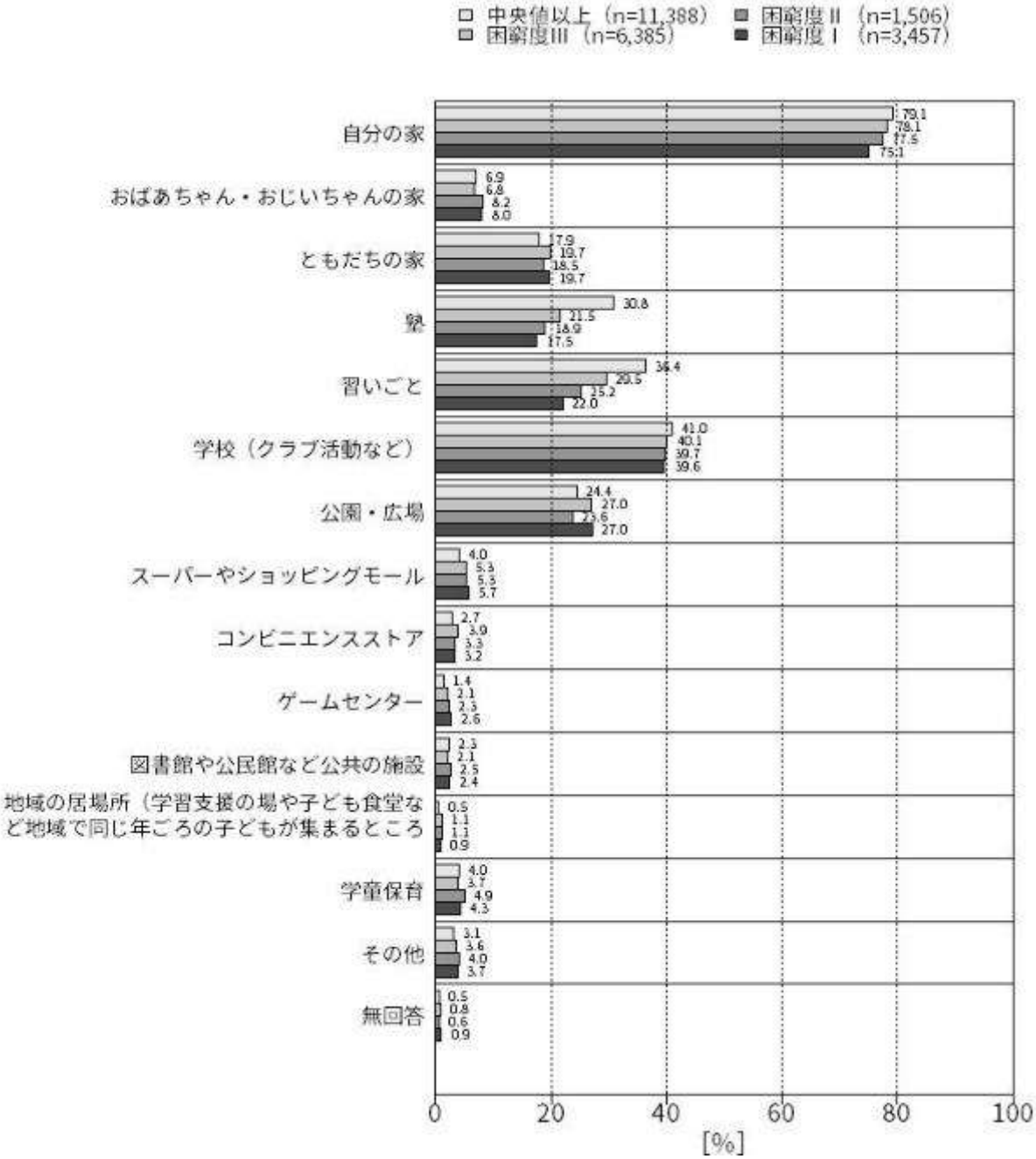
困窮度別に学校への遅刻を見ると、週に 1 回以上遅刻をする子どもの割合が、困窮度Ⅰ群では、12.2%（大阪市全体：18.4%）である。困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度Ⅰ群では「ほぼ毎日通っている」が 86.4%（大阪市全体：88.1%）、週 1 回以上遅刻する子どもは、おうちの大人と朝食をほとんど毎日とっているのが 38.0%（大阪市全体：39.7%）、夕食で 63.0%（大阪市全体：75.2%）、学校でのできごとについて話すこと、社会のできごとを話すこと、文化活動をする、などが低くなっている。

週 1 回以上遅刻する子どもは進学希望が「中学校」「高校」の割合が高く 18.5%（大阪市全体：22.3%）、遅刻はしない子どもは、「大学・短期大学」が 41.4%（大阪市全体：39.8%）であった。

３－５．対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票　問 13）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

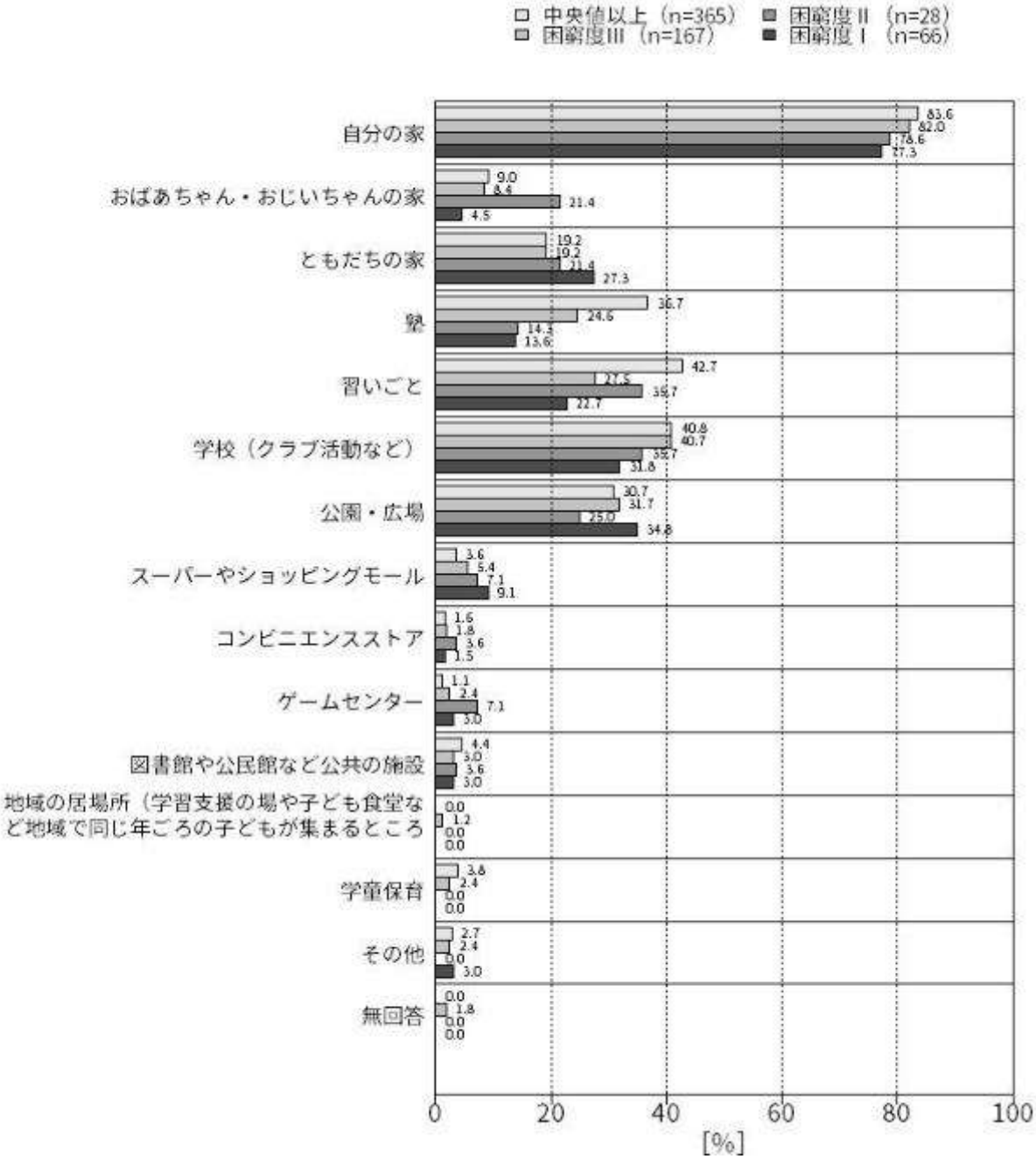
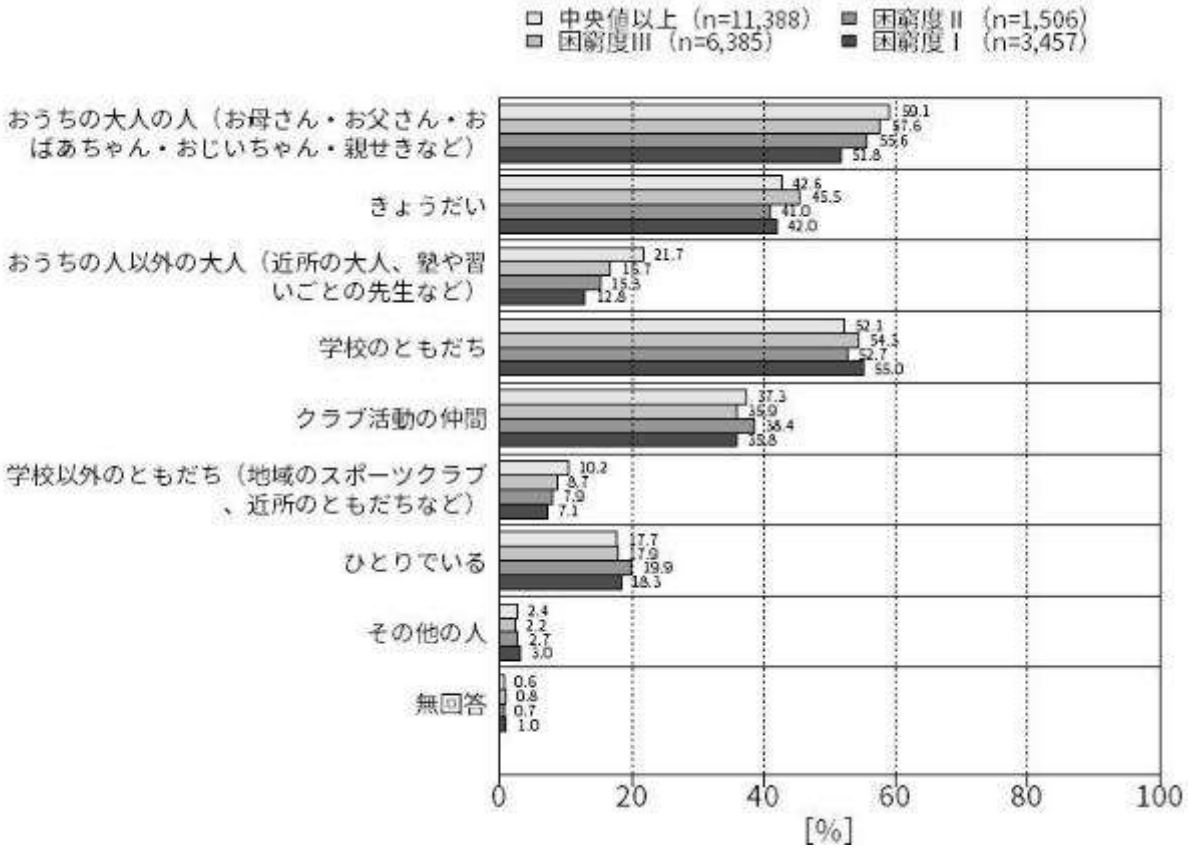


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「ゲームセンター」3.0%（中央値以上群に対して、2.7 倍）、「スーパーやショッピングモール」9.1%（2.5 倍）、「ともだちの家」27.3%（1.4 倍）、となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」36.7%（困窮度 I 群に対して、2.7 倍）、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」9.0%（2.0 倍）、「習いごと」42.7%（1.9 倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票　問 12）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

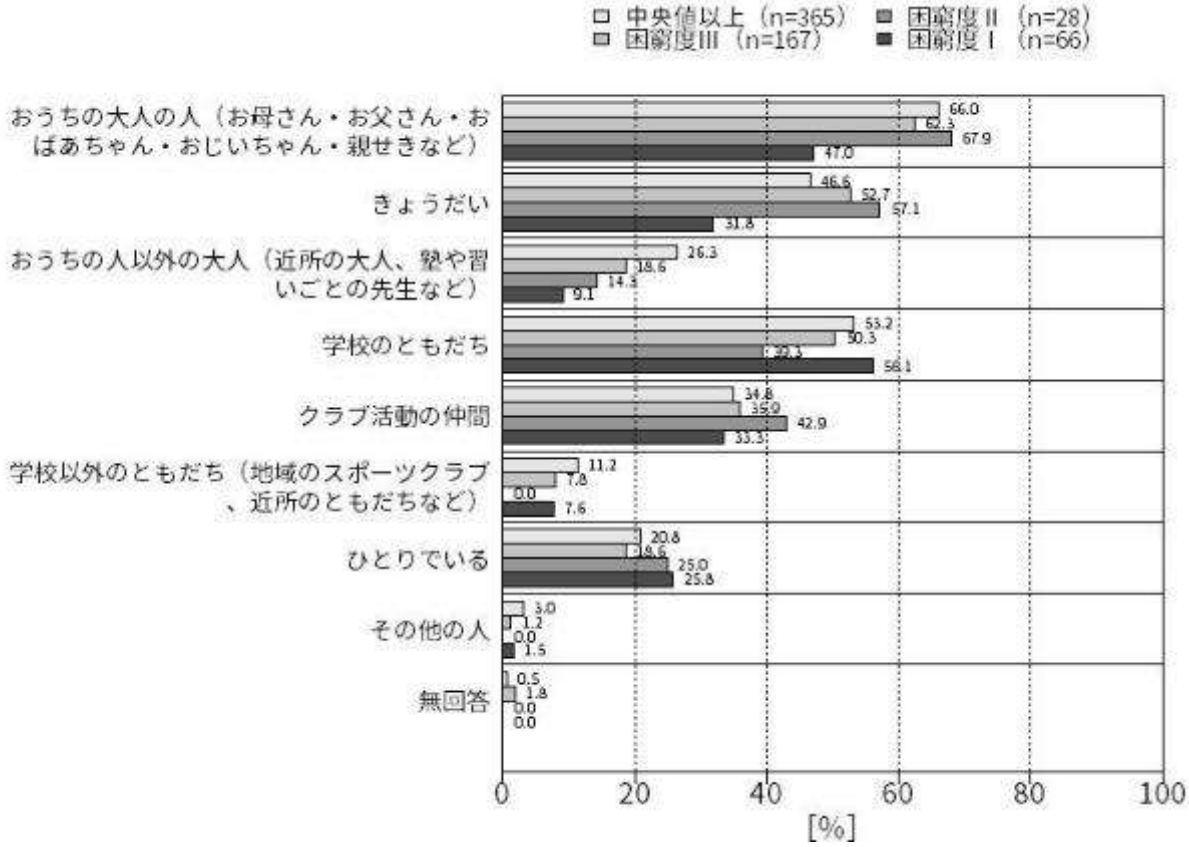
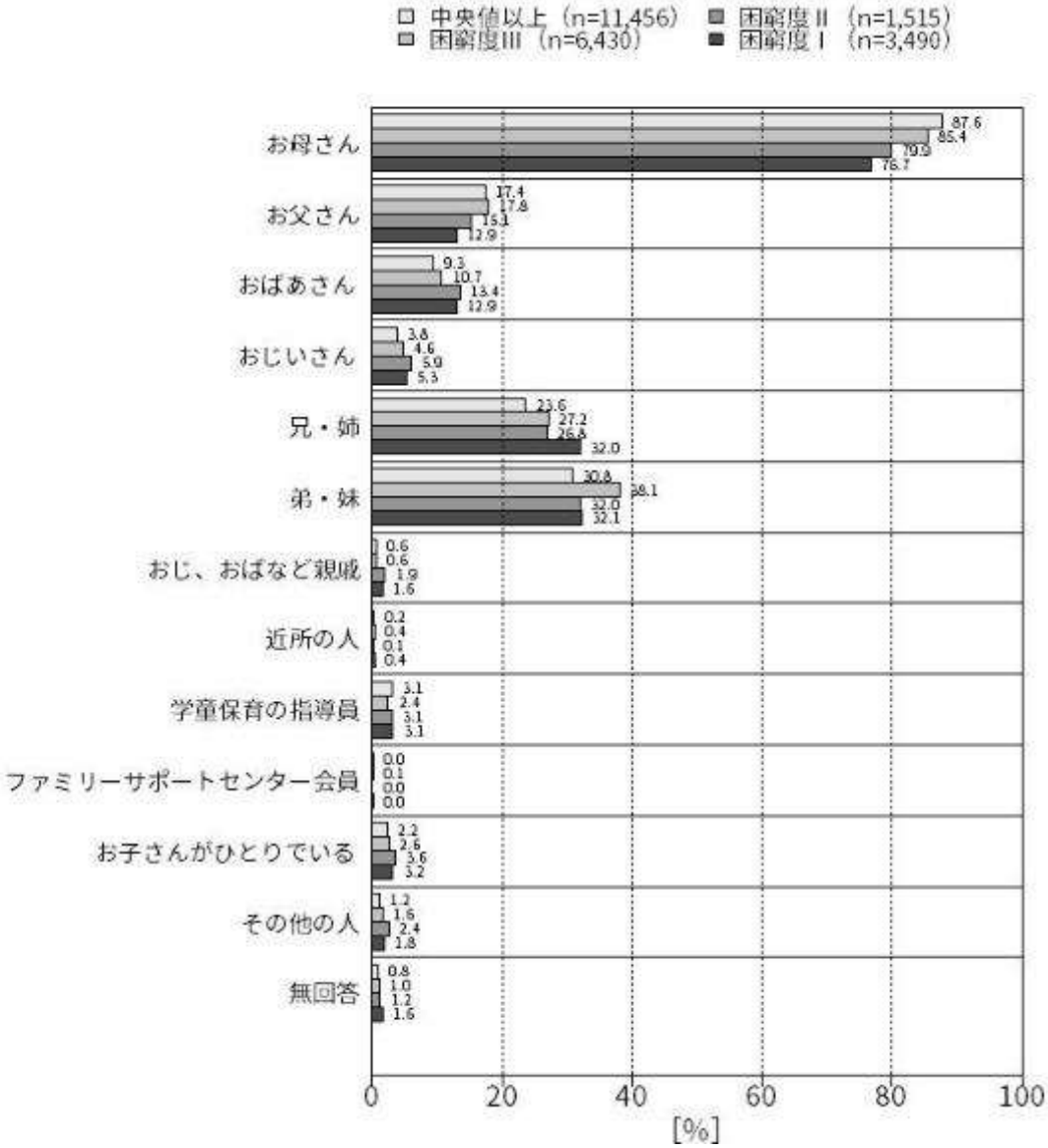


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「ひとりでいる」25.8%（中央値以上群に対して、1.2 倍）と高く、中央値以上群では「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」26.3%（困窮度 I 群に対して、2.9 倍）、「その他の人」3.0%（2.0 倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」11.2%（1.5 倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票　問 11）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

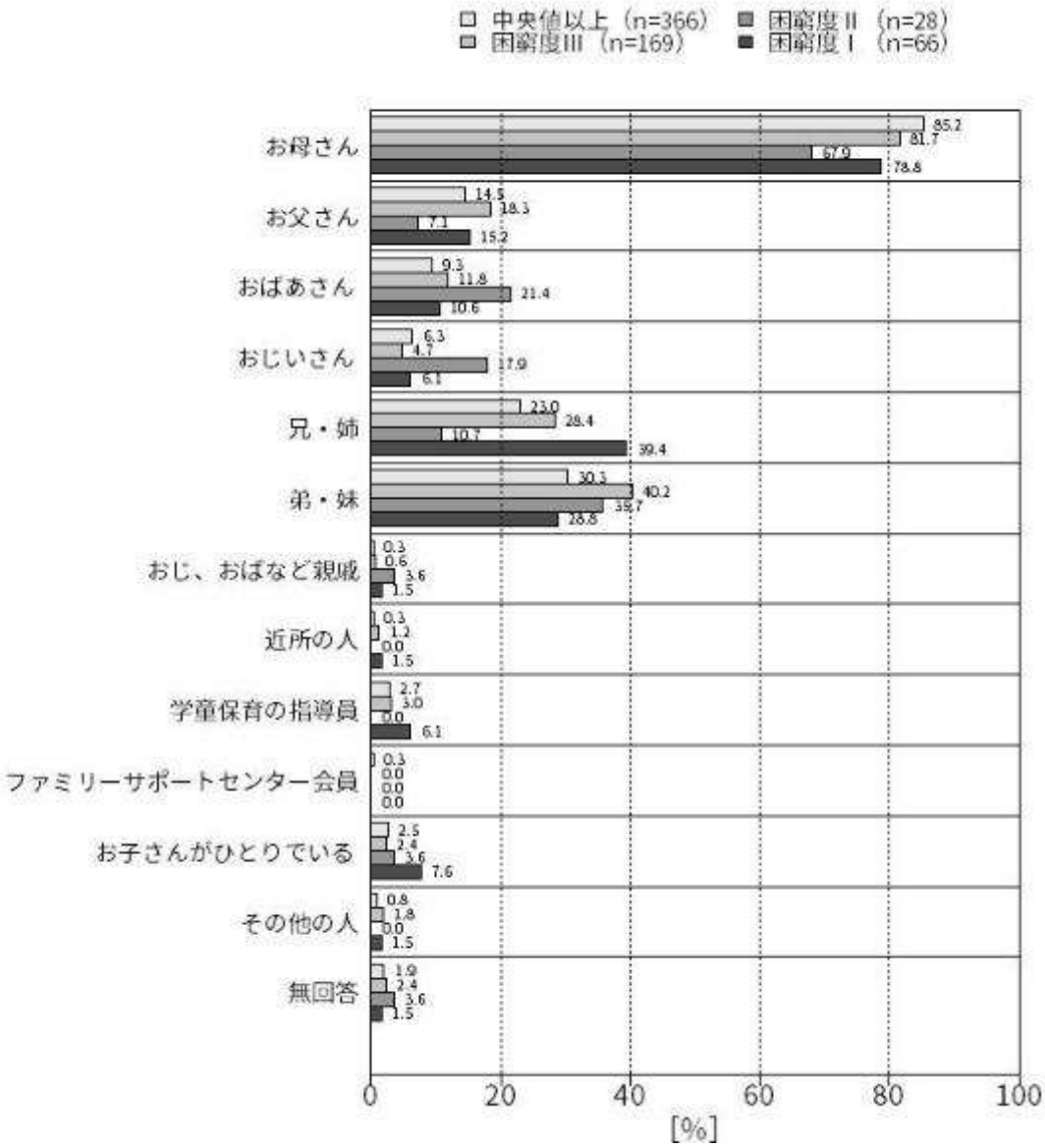


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「近所の人」1.5%（中央値以上群に対して、5.0 倍）、「おじ、おばなど親戚」1.5%（5.0 倍）、「お子さんがひとりでいる 」7.6%（3.0 倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。